

平成十五年度

ボランティアに関する作文集

小平市

## はじめに

ボランティア活動や地域活動の重要性が広く認識され、「ボランティア白書2003」によると、ボランティア活動経験者は3人に1人という今日です。こうしたなかで、小平市は、昨年につづきまして平成十五年の八月と九月の二ヶ月、市内に在住・在学の小・中学生を対象に「ボランティア」をテーマとした作文の募集をいたしました。

学校で実施されている「総合的な学習の時間」での多様な体験活動や、小平市社会福祉協議会が主催する「ボランティア講座」を体験して感じたこと、また日頃のボランティア活動を通して思ったことなどが書かれ、それぞれの地域に根付いた、実践的な活動がうかがわれます。

作文を書いた子ども達が地域活動の中核をにない、多くの子どもたちがボランティアに参加してみたいと思う状況が醸成されつつあります。

今後も未来をになう子どもたちの活動を紹介して行きたいと考えています。

最後に、この作文集は、市内の二つの市民活動団体『小平IT推進市民グループ』と『小平シニアネットクラブ』が「小平市の未来を担う子ども達の作文集の作成に関わることは意義深い」と、活字化と編集作業を引き受けてくださり、完成いたしました。

お手伝いくださった、たくさんの方々に感謝いたします。

平成十六年一月

小平市生活文化部市民生活課

## 目次

はじめに

### 【小学生の部】

まめでっぼう	小平市立小平第一小学校	四年	木村優実	1
ボランティアをやって	小平市立小平第一小学校	六年	荒川朋子	1
今の私にできること	小平市立小平第一小学校	六年	鴨志田真実	2
これからのボランティアについて	小平市立小平第一小学校	六年	木原千恵	3
みんなでやったボランティア	小平市立小平第一小学校	六年	島田里美	3
ボランティア	小平市立小平第一小学校	六年	千葉志保美	4
クリーン作戦	小平市立小平第一小学校	六年	長坂 茜	4
クリーン作戦の喜び	小平市立小平第一小学校	六年	星川 裕	5
自分の生活と地域	小平市立小平第一小学校	六年	毛利 綾	5
生きるための支え	小平市立小平第一小学校	六年	渡邊美佐子	6
ボランティア	小平市立小平第三小学校	一年	あらいゆうし	6
ボランティアをしてみても	小平市立小平第三小学校	六年	田中啓寛	6
私にとってのボランティア	小平市立小平第三小学校	六年	檜橋いつき	7
私なりのボランティア	小平市立小平第七小学校	六年	安藤莉愛	8
ボランティアをやった感想	小平市立小平第八小学校	五年	小田敏生	9
ボランティアをしてみても	小平市立小平第八小学校	五年	世継あずさ	9
これからも続けたいボランティア	小平市立小平第八小学校	六年	長内静羅	10

初めてやったボランティア	小平市立小平第八小学校	六年	益子阿里佐	10
お金じゃ買えないたわしになる	小平市立小平第八小学校	六年	高野千鶴	11
人の役に立つ事	小平市立小平第八小学校	六年	東堂愛里	12
にこにこボランティア	小平市立小平第八小学校	六年	村上暁音	12
ボランティアをしてみても	小平市立小平第八小学校	六年	山崎 栞	13
ボランティアの翼	小平市立小平第九小学校	五年	佐野優笑	14
自然と私達	小平市立小平第九小学校	五年	椿 紗恵	15
平和かつどう	小平市立小平第十二小学校	五年	村田一江	16
ボランティア体けんにかんかして	小平市立小平第十二小学校	三年	山田佳央子	16
私達が今できること	小平市立小平第十二小学校	五年	渡辺幸葉	17
私にとつてのボランティア	小平市立小平第十五小学校	六年	小田倉由未	18
ボランティア	小平市立上宿小学校	三年	小川光陽	18
ボランティアを知って	小平市立上宿小学校	三年	田中仁知也	19
大きなカンチガイ	小平市立上宿小学校	六年	荒井優一	19
私の考えるボランティア	小平市立上宿小学校	六年	菊島万純	20
ボランティアってこうゆう事	小平市立上宿小学校	六年	嶋田実季	21
ボランティアの意味	小平市立上宿小学校	六年	中根由美子	22
ボランティアのいいところ	小平市立上宿小学校	六年	服部亜紀	22
「私の考えるボランティア」	小平市立上宿小学校	六年	水上 彩	23
クリーンスタッフのこんどうさん	東京創価小学校	三年	ながいひろこ	24
おそうじのお手つだい	東京創価小学校	三年	のじりはるか	25
勇気を出して	東京創価小学校	六年	石田茂美	26
喜んでもらえた!	東京創価小学校	六年	押金光湖	26

身近にある食料をボランティアに	東京創価小学校	六年	高橋直人	27
募金について	東京創価小学校	六年	田口弘司	28

【中学生の部】

「ボランティアの楽しさ」	小平市立小平第一中学校	二年	菊田千歳	29
私たちにとってのボランティア	小平市立小平第二中学校	三年	阿部田由奈	29
ボランティアについて	小平市立小平第二中学校	三年	伊崎理佳	30
ボランティア活動に対する考え	小平市立小平第二中学校	三年	伊藤薫梨	30
すてきなボランティア	小平市立小平第二中学校	三年	大谷亮介	31
ボランティアって楽しい？	小平市立小平第二中学校	三年	笠鳥達也	31
「ボランティア」	小平市立小平第二中学校	三年	勝野桃子	32
ボランティアをしてみよう	小平市立小平第二中学校	三年	北原研二	32
「ボランティア活動について」	小平市立小平第二中学校	三年	竹内 彩	33
自分の生活と地域活動	小平市立小平第二中学校	三年	谷口愛実	33
ボランティアをしてみよう	小平市立小平第二中学校	三年	滝島由香里	33
私のボランティア活動	小平市立小平第二中学校	三年	虎岩知穂	34
ボランティアをしてみよう	小平市立小平第二中学校	三年	村越彩香	34
ボランティアについて	小平市立小平第三中学校	二年	但野由紀子	35
ボランティア	小平市立小平第三中学校	二年	吉瀬智弘	35
自分にとってのボランティアとは？	小平市立小平第三中学校	三年	植原大樹	36
ボランティアの力	小平市立小平第三中学校	三年	加藤やよい	36
車いすをおしてみよう	小平市立小平第三中学校	三年	久保山佑香	37

消えてほしい活動……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	小金井正也……………	37
ボランティアをやってみて……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	小林由季……………	38
「ボランティアをしてみてください」 バリアフリー……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	五嶋豪志……………	38
募金活動をしてみても……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	立迫美菜……………	39
ボランティアをして……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	對馬 翔……………	40
ボランティアとは……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	出口将志……………	40
私の身近なボランティア……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	中島直美……………	41
ボランティア活動……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	矢部茉莉……………	41
ボランティアの大切さ……………	小平市立小平第三中学校……………	三年……………	竹浪一樹……………	42
体の不自由な人にできること……………	小平市立小平第四中学校……………	三年……………	金平 綾……………	43
ボランティアって何だろう？……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	浅野玉備……………	43
ボランティアってなんだろう……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	天坂華織……………	44
ボランティアについて……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	飯田 開……………	44
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	井瀬利紗……………	45
やってみたいボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	磯野直人……………	45
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	馬田朋輝……………	46
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	上園 徹……………	46
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	大賀玄己……………	46
ボランティアについて……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	大澤彩乃……………	47
ボランティアとは？……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	大野由樹子……………	47
やってみたいボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	冲 啄臣……………	48
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	奥山優香……………	48
ボランティア……………	小平市立小平第四中学校……………	一年……………	菊地将基……………	49

ボランティア	小平市立小平第四中学校	一年	加藤貴優	49
やってみたいボランティア	小平市立小平第四中学校	一年	加藤紗恵	49
「ボランティアの活動を考える」	小平市立小平第四中学校	一年	片岡 瞭	50
ボランティアって何だろう？	小平市立小平第四中学校	一年	北川俊介	50
ボランティアって何だろう	小平市立小平第四中学校	一年	清水優里菜	51
ボランティアについて	小平市立小平第四中学校	一年	鈴木愛子	51
ボランティアについて	小平市立小平第四中学校	一年	高橋祐也	52
ボランティアって何だろう	小平市立小平第四中学校	一年	古野 彰	52
ボランティアをしてみよう	小平市立小平第四中学校	一年	原 篤史	53
私にとってのボランティア	小平市立小平第四中学校	一年	村上友子	54
ボランティアについて	小平市立小平第四中学校	一年	矢向美希	55
ボランティアについて	小平市立小平第四中学校	一年	吉田かずみ	55
ボランティア	小平市立小平第四中学校	一年	渡邊文子	56
始めよう！ ボランティア！！	小平市立小平第五中学校	一年	福室英俊	56
自分にできるボランティア	小平市立小平第五中学校	一年	大村悠希子	57
ボランティアとは	小平市立小平第五中学校	一年	小澤由香	58
ボランティア	小平市立小平第五中学校	一年	木下知美	58
ボランティアの大変さ	小平市立小平第五中学校	一年	辻本美優	59
21世紀をボランティア社会へ	小平市立小平第五中学校	三年	安部智秀	59
ボランティア体験をしてみよう	小平市立小平第六中学校	二年	渡辺綾華	60
夏☆体験ボランティアを終えて	小平市立小平第六中学校	三年	植村沙織	60
「あさやけ鷹の台作業所」	小平市立小平第六中学校	三年	尾形裕貴	61
ボランティアに参加して	小平市立小平第六中学校	三年	川原里美	61

おばあちゃんとの1日……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	小松恵美……………	62
ボランティアをしてみても……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	高野寿文……………	63
ボランティアを体験してみても……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	高橋 功……………	63
多摩済生園でのボランティア……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	高橋千尋……………	64
楽しかったボランティア……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	戸澤愛加……………	65
ボランティア体験をしてみても……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	中澤未央……………	65
ボランティア活動をやってみても……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	長末頼暁……………	66
ボランティア……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	姫野絵里子……………	66
ボランティアをやってみても……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	福田みく……………	67
人と人の触れ合い……………	小平市立小平第六中学校……………	三年……………	水口沙央里……………	68
ボランティアをやって……………	小平市立上水中学校……………	三年……………	宮本 蘭……………	68
老人ホームで学んだ「笑顔」……………	小平市立上水中学校……………	一年……………	中谷千咲……………	69
ボランティアの大切さ……………	小平市立花小金井南中学校……………	一年……………	阿部友里……………	70
ボランティア……………	東京都立小平養護学校……………	二年……………	大串卓矢……………	70
身近なボランティア……………	目白学園中学校……………	二年……………	飯田 藍……………	71
ボランティアを通して学んだこと……………	目白学園中学校……………	二年……………	高橋もえみ……………	72
ボランティアを通じて感じたこと……………	立教女学院中学校……………	三年……………	高橋麻美……………	73

小学生の部

## まめでつぼう

小平市立小平第一小学校 四年 木村優実

私はようち園に入る前3年間「まめでつぼう」という会に入っていました。その会は、ようち園に入る前の子どもとお母さんたちがわらべうた遊びをする会です。私は、小さかったけどお母さんと行くのがとても待ちどおしくてたまりませんでした。その日がくるとはしゃいでいました。

今では、私も小学生になったので、学校が休みの時、まめでつぼうの御手伝いをするのがとても楽しみです。私は小さい子が大好きなので小さい子と歌ったりするのがうれしいのです。小さい子に遊びを教えてあげたり、歌えなかった子が小さい声でも歌えるようになってくれたり、私にとびついてくれたりすることがあります。そんな時、私は、やってよかったなと思います。

ところで「ボランティアってなんだろう。」と考えてみると、自分から進んで世の中の人の役にたつことをすることかな、と思います。私がやっていることでは、しげん回収とクリーン作戦もボランティアになると思います。

そう考えてみるとまめでつぼうをお母さんたちと私でやっているのもボランティアかと思いました。

テレビで見ると、ボランティアというものは太ごとだったり、たいへんそうだったり、かっこよかったです。まめでつぼうを御手伝いすることは、自分の家や公民館で遊んでいるように見えるかもしれないけど、私のお母さんも助かるっていつてくれる

し、自分も楽しいし、来てくれる小さい子もお母さんたちもよろこんでくれます。

私は、小さなボランティアをやっているようにみえて本当は大きなボランティアをやっているのだと思います。これからもまめでつぼうのお手伝いを続けていきたいです。私がお母さんになったら、子どもをまめでつぼうに連れて、ようち園になったら手伝ってほしいです。



## ボランティアをやつて

小平市立小平第一小学校 六年 荒川朋子

わたしは、学校のクリーン作戦をやってみて気がついたことは、あちらこちらにゴミが散らばっていました。

その中でも、おかしのふくろや、ペットボトル、あき缶、タバコのふくろが、いっぱい落ちていました。

みんなが、一人一人気をつけてゴミをゴミ箱に捨てれば、町は、きれいになると思います。

ゴミ箱に捨てるのがめんどくさいから、草の中や、道にすてしまうのだと思います。一人一人が面倒くさがらずに外のゴミ箱か、家に持ち帰れば町は、きれいで、住みやすくなると思います。

ゴミ拾いは大切だと、学びました。

今、小平では、資源ゴミ・燃える燃えないゴミなどを分別しています。

このことは、とてもよいことだと思います。

町のいろんな所にはゴミ箱という物があるのだからぜひともポイ捨てをしないでほしいし「誰かが、清掃してくれるから」、「人がやっているからいい」と思う気持ちを「自分だけはきちんとしよう」という気持ちに変えてもらいたいと思いました。



## 今の私にできること

小平市立小平第一小学校 六年 鴨志田真実

私は電車に乗ったとき席が空いていると、必ず座ります。その中で何度か経験したことがあります。それは、お年寄りの人がいつばい荷物を持って椅子には座らず立っているということです。若い人は、全員と言っていいほどの人が座っています。私もその中の一人です。私は、(席を譲ってあげないと)と想っているけれど、それを行動に移すことができません。(声をかけよう)と想っても声をかけることができません。私が声をかけていけば、今まで何人ものお年寄りの人が楽しんで目的のところまで行けたか、あの時、声をかけていけばよかつたなあーと後悔します。

もし次電車に乗ったとき、困っている人・お年寄りの人がいたら、

席を譲ってあげたいと思います。私は、ボランティアというのがどういうことなのかよくわかりません。もし、これがボランティアの一つならぜひやっていきたいと思っています。たとえボランティアではなかったとしても、自分がこうしてあげたいなあーと思ったことはやっていきたいと思っています。電車の中だけでなく道で困っている人がいたら、助けてあげたいです。

私はこれから、小さなことでも一生懸命とりくんでいきたいと思っています。

私の学校には、たてわり班というものがあります。なにをするかというと、一年生と六年生・若竹学級の人たちが集まり、遊んだり遠足に行ったりします。今年私は六年生になり、そのたてわり班のリーダーをやらなくてはなりません、各班六年生は二人いるのですが、私の班は私一人です。4月にたてわり班が発表されたとき先生に、鴨志田さんは一人よといわれたとき、しようじき言って泣きました。私は、人前で物事をいうのが苦手だったので一人というのがいやでした。ペアの人がいれば助けてくれるでも一人だと助けてくれる人はいません。でも、今では、どってことはありません。

たてわり班では、遠足に行きます。私が一番苦労したことは、遠足でした。遠足は、東村山中央公園まで歩いて行きます。二列に並んで、となりの人とは手をつなぎます。私の班は十五人いるので誰か一人で歩かなくてはいけなくなります。でも、十五人の内一人の子は、若竹学級の子です。若竹学級とは、体に少しし書を持って生れた子が行く学級のことです。なので、一人で歩くのは、危険です。だから私は、一年生の男の子と若竹学級の子を両手に東村山中央公園まで行きました。何が大変だったかということ、両手をはな

せないということ。はなすと、道路にとびだしたりしてしまうかもしれないので、はなすことができませんでした。



## これからのボランティアについて

小平市立小平第一小学校 六年 木原千恵

今ボランティアをしている人はそれほどいません。なのであまり目立ちません。けどそんなボランティアもこれからはいろいろな人がやったほうがいいと思います。ボランティアをやれば体の不自由な人などが楽をすることができます。ほかにも地球にいいことができます。ボランティアをやれば地球がよくなります。なので私はコツコツとボランティアをやりたいと思います。どんなに小さな事でも大勢でやれば一人でやるよりだんぜんいいです。最初はボランティアをやる人が少なくてもいろいろのひとに協力してもらいたくさんの人にボランティアをやってほしいと思います。ボランティアをする人が一人でもふえればずいぶんちがいます。なのでいろいろの人に「ボランティアをやるとこんなにちがってくるんだよ」などと声をかけてりして一人でもボランティアをする人がふえてくれるとボランティアをしている人がとてもたすかると思います。



## みんなでやったボランティア

小平市立小平第一小学校 六年 島田里美

私は小平に引っこしてきました。その前いた学校で私はボランティアをしました。私が前いた学校は木がいっぱい秋になるとよく葉っぱがおちます。そこで友達と一緒に力を合わせて私は落ち葉ひろいをします。

五年生の秋、たくさんの葉っぱがおちてきました。早く登校し教室に落ちた葉を友達と拾いました。放課後も落ち葉ひろいをしました。ボランティアだけでもやってみるととても楽しいです。友達とどのくらい落ち葉を拾えるか勝負し競うこともありました。

落ち葉拾いは、はじめはやだなあとかもすぐく思いました。やっていくうちになれてきてだんだん楽しくすきになってきました。

楽しくやっていることは学校にとつても自分にとつても大切なことだと思えます。本当のボランティアだなぁと自分の心にもこのりました。私は五年生でボランティアができてうれしいです。私は今でもボランティアを見つけて色々してみたいです。とくにお年寄りや学校のためにやってみたいのです。老人ホームとかが近くにないけど老人ではなく友達といるように楽しくせつしていきたいです。自分にできること、どんなことがあるのか自分を見つめなおしていきたいです。



## ボランティア

小平市立小平第一小学校 六年 千葉奈保美

私はボランティアをあまりやったことがありません。

だけど、ほかの人がボランティアのことについて書いていたり、クリーン作戦やせいめいえんなどに協力しているところを見ていると、私も何かやらなくちゃいけないと思います。

だから、今度からはなにかボランティアにかかわる事をやっていきたいと思います。

例えば、今学校でやっている、目の不自由な人のために使い終わった、テレホンカードや、プリペイドカードを集めたり、ユニセフ募金を集めたり学校のまわりや家のまわりに落ちているゴミを拾ったり、色々な事をして、少しでもボランティアにかかわる事を皆でしていきたいと思います。

## クリーン作戦

小平市立小平第一小学校 六年 長坂 茜

私は、学校でやっているクリーン作戦について考えてみました。クリーン作戦は毎年一回やっています。自分たちの家から学校まで歩きながら、落ちているゴミを拾って行きます。

私は、毎年やっているわけではないけど、できるだけ毎年出よ

うと思っています。でも、用事とかがあつたりしてなかなか出る事ができません。

私の家は、玉川上水に近くて歩いていると高校生の人達や、散歩をしている人が、ゴミを拾っているのを見た事があります。あと、私のお父さんも散歩の帰りに時々ゴミを拾ってくる事があります。私は「玉川上水をみんなで大切にしているんだな」と思いました。

前に、クリーン作戦に参加した時、自然がいっぱいある玉川上水の木の間や、見えにくい所にゴミがありました。その中には、傘や、ビニールのゴミや空缶があり、みんな自然にかえらない物ばかりです。

クリーン作戦は、暑くて大変だったけど、学校についた時には、ゴミ袋はいっぱいになり、活動が終わると、気持ちがすっきりして楽になりました。最後に、ジュースがもらえてうれしかったです。

今年、夏休の宿題か、ゴミを減らすポスターだったので私は、自然の中にゴミがちらばっている様子を書きました。みんなが、ゴミをすてないように思いました。

私は、いつもがゴミが落ちていても拾おうとしないので、これからはできるだけゴミを拾ってみようかなあと思いました。

あと、できるだけ毎年クリーンな作戦にさんかしてみようかなと思っています。



## クリーン作戦の喜び

小平市立小平第一小学校 六年 星川 裕

私は少し前まではあまり、ボランテアには関心がなかった。つまり一言で言うと、「ボランテア」という言葉も忘れていました。

そんな私は、(せめて少しぐらいは……)と思つて、友達と一緒にクリーン作戦に参加しました。思つたよりもゴミが多く、ちよつとイヤになった時もあったけど、なーんとかそこらへんの小さいゴミをとらないと気がすまなかった。私はこの時、なんでこんな気持ちになつたのか、まだよくわからなかった。

そして学校につくと小さい子から誰かのお父さん、お母さんなどけつこうたくさんの方が来ていました。その中でも、ゴミを分別している人は細かいゴミもちゃんと分別してましたのでおどろきました。もし私が分別していたら、一体どうなってしまうんだろう……と自分で自分に思つてしまいました。こんな自分が情けないなあと思つて思いました。

帰り道、キレイになつた自分の通学路を通ると心がスッキリした。とくに良いことがおきたわけでもないのに。すると私は思い出した。『ゴミをとらないと気がすまない』と言うわけはきつと、町をキレイにすればするほど自分の心もスッキリする、逆に言うと自分の心もスッキリさせるには町をキレイにする事、こういう意味だと思つた。この一日でやっと「ボランテア」と言う言葉を思い出した。ボランテアの本当の意味を……。

ボランテアとは、ただ人を喜ばすためではなくちゃんと自分の

ためにもなる、それがボランテア。

私は、ゴミ拾いだけではなく、次は募金にも協力したいと思つています。世界のために。

## 自分の生活と地域

小平市立小平第一小学校 六年 毛利 綾

小平第一小学校には、若竹学級があります。若竹学級は、少し障害をもつた子供たちが通う学級です。この若竹学級の保護者会の時、お母さん達がゆつくり話せるように、その時間だけ、若竹の子供達と普通のお母さん達が交流する若竹ボランテアという活動があります。私が、一年生の時、若竹ボランテアに参加したら、髪の毛を引っぱられたり、絵の具を勝つてに出されたりいやな思いをしたので、それ以来私は若竹ボランテアには行きませんでした。

しかし私が四、五年の時に、若竹学級の先生が、若竹の子供たちのことを話してくれたので心の中で、

「若竹の子つていろいろあるのだなあー。みんなとちがつて軽い障害みたいなのを持つていてだけで通常学級とちがつて授業をうけないといけないのだから。」と思ひました。一年生の時にやられた(髪の毛のことや絵の具のこと)ことは、しょうがないと思ひ考え直すことにしました。私は、一回、若竹学級のことを、嫌いになつたので、これからは若竹学級の子を好きになろうと思ひました。

今まで、行かなかつた若竹ボランテアに参加することに、決め

ました。

今の六年生やほかの学年では、まだ、若竹の子を、よく知らない友達がいっぱいいます。私は若竹学級の子が、好きで、障害をもっているわけじゃないことを、みんなに、教えたいし、私自身も、もっと、もっと、若竹学級のことを知って、みんなに、広めたいです。これから、私は、若竹ボランティアに参加して、若竹学級の子と、いっしょに、遊びたいと思います。

## 生きるための支え

小平市立小平第一小学校 六年 渡邊美佐子

私は、テレビやパソコン・本などで、「ボランティア」という言葉を聞いたことがあるけれど、よく考えたことはありません。でも、よく考えて見ると、「ボランティア」ってすごいと思います。なぜなら、人の役に立ってあげられるからです。私は、人の役に立つと、気持ちいいと思います。そこでたまに、「ありがとう」とか「うれしいよ」とか言ってくれと、心が安まります。だれもが「ありがとう」と言われると、うれしいし、気持ちよくなるでしょう。

「ボランティア」をやるってむずかしいと思います。何か、きっかけがないと、みんな、積極的に取り組むことができません。積極的にやらない人には、ボランティアをやってもらう側の気持ちになって、考えてはどうかと思います。目の不自由な人・耳の不自由な人・足の不自由な人・たくさんの不自由な人にとって、「ボラン

ティア」とは、生きるための支えになっていくのです。

私は、「ボランティア活動」として、募金などができると考えます。普段からベルマークを集めるなど、ボランティアに関することをやっていきたいです。

## ボランティア

小平市立小平第三小学校一年 あらいゆうし

ぼくは、てれびであぶらまみれになった。ぺんぎんをみました。

そのぺんぎんをあらうひともいました。それもボランティアだなあとおもいました。ぼくは、まえごみひろいをしました。それもボランティアかな。ごみひろいをしていちばんおよかったごみはたばこのすいがらです。ぼくは、ごみひろいをしておもったことは、ましがこんなに来たなかつたんだなあとおもいました。

ぼくでもできることがいっぱいあるとおもうので、これからちやうせんしてみたいです。

## ボランティアをしてみて

小平市立小平第三小学校六年 田中啓寛

ぼくは、ボランティアのゴミゼロデーをしてみた。

最初は、ゴミがなくて、ひまだった。

けど、少し歩くと、ゴミがあつて拾ったけど、拾っても拾っても

ゴミがある。

それで、学校についたがまだ人はいなかった。

ぼくは、考えた。

あんなにごみがあるからボランティアの意味ないのかと思った。

それで、人が集まった。

みんなのゴミを合わせると、すごい量がある。

それで、帰りみち見てみると全然ゴミが落ちてなかった。

ボランティアはしてみるものだと思った。

けど、次に日は、残念なこと、もうゴミがすててあった。

やっぱりボランティアは、意味があった。

ぼくのクラスで、ボランティアのポスターを書いた。

そのポスターは、ポイステ禁止のポスターだ。

あと、みんなで、ゴミ拾いもした。

これで、ゴミのポイステが減ったのか気になる。

ぼくたち以外の人には、役に立っているのだろうか。

もし、ゴミのポイステが減ったらとてもうれしい。

うれしいのは、ぼく以外にもたくさんいるだろう。

だって、みんなで、力を合わせてがんばったボランティアだから。



## 私にとってのボランティア

小平市立小平第三小学校 六年 槽橋いつき

私は、三才の時からピアノを習っていました。初めは人に聞かせられるような曲は弾けなかったですが、何年も習い続けて、少しずつ弾ける曲が増えていきました。簡単な曲なら弾けるようになった小学二年生の夏、先生から「夏休みに老人ホームで演奏会をやるので来てくれないか」という誘いがありました。

当日、老人ホームへ行くと、同じくピアノを習っている子、老人ホームへ通っているおじいさん、おばあさんなどの人が五十人位来ていました。演奏会は順番にピアノを弾くだけでなく、皆でゲームをしたり、自分達で作ったプレゼントをおじいさんやおばあさんにあげたり、おやつを食べたりしました。私は毎年この演奏会を楽しみにしていました。

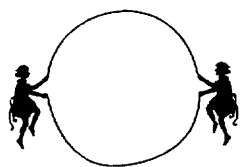
しかし、去年の九月に自分はピアノにむいていなかったのか、ピアノの習い事をやめてしまいました。でも、今年の夏に、「今年も演奏会をやりませう。また、ボランティアをやってください」と言われびっくりしました。私が楽しみにしていた行事がボランティアだったのを知り、驚きました。

今年も、八月二十五日に演奏会へ参加しました。今回はピアノをやめてしまいましたので演奏はしないで、おじいさんやおばあさんといっしょにゲームをしたりしてすごしました。

今までは、ピアノがちゃんと弾けるように間違えないように、などを中心でしか、考えられていませんでしたが、今年は、ピアノを

やらない上にボランティアという事に気付いたので、おじいさんやおばあさんをいつも以上にやさしく大切に、このボランティアをしました。そのおかげでこの演奏会に参加してピアノが上手く弾けたという満足感以外に、おじいさんやおばあさんが楽しんでくれた、喜んでくれたという幸福感を味わう事ができました。

私にとってボランティアは、大変で忙しく、難しいものだと思っていました。でも、自分が楽しめるようなボランティアもあるのだなあと思いました。また来年になっても、このボランティアにぜひ、参加したいと改めて思います。



## 私なりのボランティア

小平市立小平第七小学校 六年 安藤莉愛

八月九日、群馬の大理石村ロックハート城にて、シャンソン歌手清水康子さん主催の、「生きる」小児がん征圧「天使の泉」チャリティコンサートが開かれました。

私は、母とコンサートに、生け花で参加させて頂きました。母は、「ひとつ」と言うタイトルで、大自然と人々の優しい心の融合を表現した大作でした。私は、「エンジェルハート」と言うタイトルで、ステ

ージ花を生けました。天使達が楽しそうにお花畑を、飛び回って遊んでいる様子をイメージして天子の優しい心を会場の皆様にお伝えしました。

このコンサート参加には、私のいろいろな思いがありました。

一昨年、去年と二年にわたっての夏は、小児病棟に入院していました。同じ病室に、小児がんの子どもがおりました。まだ、あどけなく幼いのに病氣と闘っている姿は、私自身も辛かったけれど、更に心が痛みました。

また、どうやって接してあげたらいいのか、わかりませんでした。今思うと、健康な身体の子供と変わりはないので普通に接すれば、よかったですと思いました。

私にとって、家族からの手紙がお守りでした。手術の後、ますいがかれたばかりの私の第一声は、「誰だかわからなかったけれど、とても優しくしてくれた看護婦さんがいたよ。」と、言ったらしいです。その言葉に両親は涙があふれてきたそうです。

私が頑張れたのは、家族の愛や先生、看護婦さんからの愛、そして学校のお友達のおかげでした。私も、お世話になった方々や、病気で辛い思いをしているお友達に何かしてあげたい！と思っておりました。

そんな時、今回のチャリティコンサートのお誘いがありました。シャンソン歌手清水康子さんは、小児がんのお子様のために、一生懸命にお歌を通してチャリティ活動をなさっておられる素晴らしいお方です。

今度は、病氣と闘っているお友達を励ますために。また一日も早く元気になられます様にお願いながら。そして清水さんの優しい気持

ちにお答えできる様に、ステージ花に心をこめました。  
ステージ花で、出演された皆様や、台風の中来てくださったお客様  
を優しくお迎えできた事を、とてもうれしく思います。

私なりのボランティア・・・  
出来る事から初めよう！

そして、これから出会う皆様に感謝し、立派な大人になるために考  
えながら生きていきたいと思えます。

人に優しくされると、安心できて元氣や勇氣がわいてきます。私は  
将来、人のために喜んでもらえるお仕事をやりたいです。

このチャリティーコンサートに参加して、私に心の中は、一まわ  
り大きくなれた気がいたします。

## ボランティアをやった感想

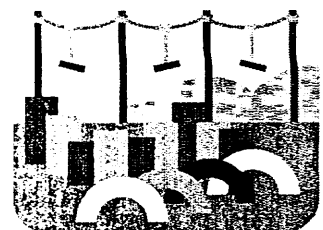
小平市立小平第八小学校 五年 小田敏生

ぼくは、はじめてボランティア委員会の活動で、テレホンカード  
をあつめました。すごくいっぱいあつまったので、みんなでぶんた  
んしてやりました。あとほかには、小平第八小学校で、わいわい広  
場のときにフリーマーケットをやります。しようひんがいっぱいあ  
つまって、ねだんをつけました。それでフリーマーケットをやしま  
した。いっぱいあって、お金も思っていたよりたまりました。そし  
て、そのお金をどこかにきふしように思っています。

そんなことをしてみて、ボランティアは人のためにあるものだ  
と、もつとしっかりがんばろうと思えました。

## ボランティアをしてみても

小平市立第八小学校 五年 世継あずさ



私は、ボランティア委員会に入りました。  
入ろうと思った理由は、今まで、ボランティアなんてほとんどし  
てこなかったし、どのような事をどのようにするのか知りたかつ  
たし、やってみたかったからです。

でも、委員会をやってみると、ボランティア委員は初めてでき  
たのでどういう事をやればいいか分かりませんでした。そして六年生と  
かいろいろ発言しているのに、私は最初どんなことを言っているの  
かとまどいました。でもやっているうちに、「こんなこともボランテ  
ィアになるのか。」などと思えるようになりました。

学校で地域のみなさんと開く『ワイワイ広場』でフリーマーケット  
をしたり、テレホンカードをあつめたりすることが決まりました。  
フリーマーケットで売る品物は、みんなによびかけて協力してもら  
いました。ねだんをなるべく安くしたり、テレホンカードを入れる  
箱を作ったり、みんなで協力してやったらすぐにおわりました。当

日、はじまつてから「おつりのことわすれてたあつて」と言つて、先生が最初お金をかしてくれました。お客さんがいつぱいきてくれて、品物はほぼ全部売れて、お金も集まりました。集まつたお金は、こまつている人たちにあげます。テレホンカードや古切手も、みんな協力してくれたのでたくさん集まりました。ボランティアは大変だけど、人の役に立てるといふことは、すごく気持ちがいいことをあらためて感じました。これからも、クリーン作戦など、あつたら参加したいと思ひます。

## これからも続けたいボランティア

小平市立小平第八小学校 六年 長内静羅

六年生になつて、新しく「ボランティア委員会」といふ委員会ができました。私は、「楽しそうだな」と思つて入りました。でも、実際は思つたより大変でした。学校では使い終わったテレホンカードを集め、六月には、わいわい広場でフリーマーケットをしました。フリーマーケットでは、前半後半に分かれて仕事をしました。私は、呼びかけをしました。暑い中、水を補給しながら一生けん命呼びかけをしたかひがあつたのか、たくさん人が来てくれました。呼びかけの他わたしは、おだまきの人たちと一緒に店をまわりました。おだまきの方が、車いすに座り私たちが車いすを押します。上手に押

せるか最初は不安だつたけど、付きそいの方にアドバイスを受けて、乗っている人の気持ちになつて押してあげることが大切だと分りました。一緒にスライムも体験しました。とっても嬉しそうで、こつちまでうれしくなつてきました。これから、おだまきの人たちと、もっと交流を深めたいと思ひます。

車いすといへば、私のおじいちゃんは車いすで生活しています。原因は、脳こうそくです。

私が小さいころの話です。夜中におなががすいたらご飯を持つてきて食べさせてくれたり、トイレにつれてつてくれたり、色々世話をしてくれました。だから、私も何かおじいちゃんにしてあげたいのです。そう思つて、今年の夏休みに北海道へ行きました。けれど、やつてあげたい気持ちはあるものの何をすればいいのか分らず、何もできないまま東京に帰つてきてしまいました。とっても後悔しています。ボランティア委員会に入つた理由は、このことでもあります。これからいろいろな活動をやつていくうちに、何をしてあげられるのか見つけていきたいと思ひます。そして、人々の役に立つて働きたいです。

## 初めてやつたボランティア

小平市立小平第八小学校 六年 益子阿里佐

わたしは五年生の時、初めて赤い羽根共同募金に参加しました。初めはすぐ終わると思つていたけれど、やつてみると大変で時間が長く感じました。いろんな人に声をかけていると、募金してくれる

人もいれれば無視していつてしまう人もいました。募金してくれた人の中には「がんばってね。」などと言ってくれる人もいました。うれしくてやる気がたくさんでってきました。もうちょっともうちょっととやっている、もうまっ暗になつていて、私たちのグループが一番最後になってしまいました。たちっぱなしで疲れたけれど、終わりには時間が少なく感じ、もっとやりたいという気持ちでいっぱいでした。そういうこともあって、六年では新しくできたボランティア委員会に入り、たくさんボランティアをしました。これからもいろんな人たちのためにボランティア活動に、かかわっていきたいと思います。

## お金じゃ買えないたわしになる

小平市立小平第八小学校 六年 高野千鶴

私は小平第八小学校のボランティア委員会の委員長を勤めています。ボランティア委員会は私が六年生になってあたりしくできた委員会です。入ったきっかけは面白そうだなあと思ったからで、夢だった委員長にもなれて、初めはうれしいことばかりでした。

しかし、いざ司会をしてみるとちよつとした問題が発生しました。この委員会は新しくできた委員会なので、仕事があればやこれやと決まっていなかったのです。

先生から助言をいただき、まず「ボランティアとは何だろう。」というところについて話し合ってみました。いろいろな意見が出て、今後行うことも見えてきました。内容はほとんどが、人の役に立つこ

ととか、お金をもらわずに働くという意見だったと思います。

そしてついにやる事が決まりました。その仕事とは、六月十四日のわいわい広場でのフリーマーケットを行うこと、それと古いプリペイドカードをあつめる事でした。わいわい広場は八小の校庭で行われる行事の一つで、去年新しく始まりました。青少対の方々はフリーマーケットを出すことを快く引き受けてくださり、さらにその他様々な仕事も与えてくださいました。児童のみんなからも様々な品物を寄付してもらい、値段もつけていよいよ当日です。

おじいさん、おばあさん、友達など様々な年代の方が立ち寄っていただくさき、最後は見事完売。ユニセフに寄付する予定の売り上げは金はなんと四千円近くも集まりました。

さらに、校内で集めていたプリペイドカードも二百枚近く集まっています。地域の皆様、児童の方々、来校者の方々、協力してくださった皆様に本当に感謝しています。

ボランティアは疲れます。それもそのはずです。自らは行つても得る物が無いからです。でも、やり終えた後のだれかの「ありがとう」はとても心にしみみますよ。そして、今自分がここでした事で、人の命をたすける事ができるので、自らがとても誇りに思えます。さらに、どこかでだれかが私達にありがとうと言っている、思っていると思うと、世界は一つと言っていることを心を感じることもできます。物は得ることができぬとも、見えない何かを得ることができません。そして、それは自らを磨くたわしになつてくれるのではないのでしょうか。みなさんもボランティアをして、その見えないたわしを手に入れてください。それはお金では買えません。自分が人々の温かさ、自らに対する誇り、様々なことを感じ、理解するたびに、

それはどんどん大きくなるのだと思います。私は今回のボランティアをきっかけにこんなことを考えてみました。



## 人の役に立つ事

小平市立小平第八小学校 六年 東堂愛里

私は、六年生に入って初めて出た ボランティア委員会に入りました。

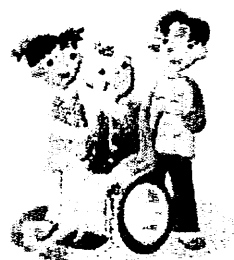
私がボランティア委員会に入った理由は、新しく入った委員会なのでおもしろそうだと思ったので入ってみました。

ボランティア委員会は初めてできた委員会なので最初にやる事についてから話し合いました。そしてボランティア委員会でやる事になったのは、テレホンカード集め、フリーマーケットを開く事、この二つに決まりました。この二つの事をして集まった物をお金に加え、そして恵まれない人に寄付しようと考えたからです。フリーマーケットはボランティア委員会で自分の家からいらぬものを持って来て自分たちで売りました。お金もけっこう集まりました。

テレホンカード集めは、集まったテレカをお金にしてユニセフに送ります。テレホンカード集めは八小の人たちに協力してもらい三百枚以上も集まりました。八小のみんなが協力してくれたおかげで

たくさんテレホンカードが集まって良かったと思います。

私がボランティア委員会を経験して人の役に立てて、うれしいです。これからも人の役に立つようがんばりたいです。



## にこにこボランティア

小平市立第八小学校 六年 村上暁音

私は今までに二回、ふくし老人ホームにボランティアに行った事があります。

初めての日、私は車いすをおさせてもらいました。車いすはおすのがとても大変でした。老人ホーム内は車いすの方のために段差は全然ありませんでしたが、外にはたくさんさんの段差や階段、でこぼこした通りにくい道があります。ふだんはそんな事に気が付きませんでした。だから外でなにか困っていたらできることはお手伝いをしたいと思いました。

おじいさん、おばあさんとはたくさんお話をしました。手品などをやって見せたらとても喜んでくれました。

私が一番大変だと感じたのは、かさの絵に折り紙をはったり、クレヨンや色えんぴつで色をぬったりする作業でした。私はおばあさ

んとはり絵をしました。おり紙をちぎっておばあさんにわたしてあげました。なぜ大変と感じたかというところ、その時おばあさんがどれぐらいの大ききさで、どの色を使いたかと思っているかななどの好みに分らなくて喜んでくれるか心配だったからです。でもきれいなかさの絵ができてとても良かったです。

また、お話をする時友達と話す時のように、「ボソボソ」と言ってしまうと言いたい事がなかなか伝わらなかったりしました。でもだんだん（これぐらいの声の大きさがちょうどいいかな）と思うようになりました。私は「今の遊び」の話をしました。おばあさんは「昔の遊び」のことや前に住んでいた家のことを話してくれました。

最後の日、私はずつとおばあさんと話していたいなあと思いました。なぜならおばあさんがとてもここにこしてうれしそうにしていたし、私もいろんなお話をしたりきいたりしてやさしい気持ちになれたような気がしたからです。

二回のボランティアをやつて、もっといろいろなボランティアをやりたいと思いました。今回、車いすをおすことで初めてふだんの私たちの生活の中にいろんな不便があることに気がつきました。これからは、もっと小平がみんなにとって住みやすい町になるようにいろんなことに注意をむけていきたいと思いました。

また、学校のクリーン作戦などにも自分から参加したいと思いました。ボランティアをやっているいろいろなことに気が付けてよかったです。



## ボランティアをしてみよう

小平市立小平第八小学校 六年 山崎 葉

私の小学校では、ボランティア委員会があり、私は、ボランティア委員会に入っています。ボランティア委員会は、今年できたばかりです。入ったきっかけは、ボランティアは人に役立つので、ボランティア委員会に入ってみました。

六月十四日に八小の校庭で、わいわい広場と言う、ちょっとしたお祭りがありました。そこには、PTAのお母さんや、ボランティア委員会がお手伝いをしました。ボランティア委員会は、フリーマーケットや、ガイドヘルプをやりました。大変だったけど、フリーマーケットではみんなががんばって、四千円ちかく集まりました。ガイドヘルプでは、会場案内をしたりして、迷っていた人達も私達のおかげで、楽しく遊べたと思います。がんばったかいがあります。ボランティア委員会で、その他にも、テレフォンカードやバスカード、オレンジカードなどを集めています。みんなのおかげで、結構集まりました。フリーマーケットで集まったお金とテレフォンカードなどは、ユニセフに寄付します。

私はその他にも個人的に、電車に乗っている時に、お年よりの人がいたら、なるべく席をゆずるようにしています。

私はボランティアをして、「有難う」と一言言ってくれた時が一番うれしいです。少し、つかれる時もあるけど笑顔で気持ち良くボランティアできるようにこれからがんばりたいです。

## ボランテニアの翼

小平市立小平第九小学校 五年 佐野優実

私は、ボランテニアについては、よく知りませんが、私は、マンシヨン内の、副ジュニアリーダーです。マンシヨンがキレイになるように、クリーン作戦をしたり、お楽しみ会で、みんなを引っばったりしています。この夏には、えい画会をしました。

そして、この夏には、自由研究をしました。夏休みの自由研究では、「障害」をテーマにして研究しました。どうしてそのテーマにしようと思ったかという、前から、興味を持っていたのと、少しでも障害を持った人たちの「気持ち」が、知りたかったからです。

その中で、実際に、ボランテニアをしている方にインタビューしてみました。その方はしかく障害者を、目的地につれていくボランテニアをしているそうです。たいへんなこともあるけど、その方はとても楽しそうにインタビューにこたえてくれました。

それを見て私は、  
(ボランテニアをして、よろこんでくれるのがとてもうれしいんだなあ。)  
と、思いました。

次に、歩き方を教えてくれるというので、お願いしました。障害者になりきってみると、どこがかべか、どこがかいだんか、全く分からないので、とてもこわくかんじました。

ですが、なにがどこにあるか、今の風景などをていねいに教えてくれて、ホッとしました。それをきっかけに、私は自分がどこもわる

くない、健康な体で生まれたことを幸せに思うようになりました。そんなことがあって、私は、そういうボランテニアをしてみたいと思います。

今、世の中には、悪い人がたくさんいます。平気で人を殺したり、自殺したり、人をゆうかいしたり、なぐったり、そんな人には、私は、歌の中の、『翼をください』を聞いてほしいです。翼をください、昔よく父がうたってくれた歌で、とてもステキな歌です。この曲を作った方は、私と気持ちがよく似ています。

♪いま、私の願いごとがかなうならば、つばさがほしい……  
こ大空に翼をひろげ、飛んでゆきたいよ

かなしみのない自由な空へ翼はためかせ、ゆきたい♪  
障害を持った人も、そうでない人も、翼をつくれれば、心に平和がもどり、そして自由がもどるだろうと、私は思います。

これからは、ボランテニアをしてくれる、そんな心の平和な人たちであふれかえるような世界にしていけるとうれしいです。



## 自然と私達

小平市立小平第九小学校 五年 椿 紗恵

私達が住んでいるこの地球は、植物や生き物などがたくさんいる自然の星です。

しかし、その自然をこわしているのは、私達人間です。でも自然がないと人間は生きてはいけなくなります。

なので、なるべく私達が自然を守るようにしなきゃいけないと思いました。

そこで、だれでもしている、簡単なボランティアをしようかいます。

一つ目は、「緑の羽根募金」です。「緑の羽根募金」は自然のための募金です。例えば、緑もなにもない大地に木を植えたりします。

たった五円や十円でいいのです。募金は、「こういうことなら出そう」とか「絶対に自然を守ってほしい」などの心と、みんなの協力の上でなりたっているのです。

二つ目は、「クリーン作戦」です。クリーン作戦は、何処の地区でもやっていると思います。しかし私達はなぜ「クリーン作戦」などをしてはいけないのでしょうか。それは、ある一部の人がゴミを捨てているからだと思います。でも、それだけではありません。道のはじよせてある石を、道の真ん中でけつたりする人がいるからです。なので、ゴミを捨てたり、人が歩く道に石をけつたりする人がなるべくいなくなればいいなと思いました。

そして最後に一番印象に残ったのは、「ポケットエコスペース」は、

一般的に「ビオトープ」とよばれる生き物たちの庭のことです。放つておけば、自然がどんどんなくなってしまう都会に作った、生き物たちのオアシスです。水たまり、草原、木かげなどを作って、後はなるべく人の手を加えずに、自然が本来もつ力によって、失われた自然を取りもどそう、こういう活動を、千九百八十八年から始め、現在区内の公園、小学校、幼稚園に、二十七ヶ所作ったそうです。

私は、自然を守ろうかと思う人がふえて、ゴミを捨てたり、石をけつたりしなくなればいいなと思います。あと、緑の羽根募金で募金してくれる人がふえるのもいいと思います。それと、「ポケットエコスペース」は人工的に作られた物なので、いつか、自然にできるようになるといいと思います。

## 平和かつどう

小平市立小平第十二小学校 五年 村田一江

「みなさんはこんな事を考えたことがありますか。」

私たち日本人は、今の暮らしがあたりまえのようだ。と知っている人が多いと思いますが、世界じゆうをすみからすみまでのぞいてみると、アフガニスタンをはじめいろいろな貧しい人々が一生けん命生きています。中にはうえじにする人もたくさんいます。

日本と貧しい人々を比べてみると、日本は服も一人一人もついで、食料品もめぐまれている生活に必要な物は、なんでもある国だけど、貧しい人々は日本とほとんど逆で、食料品もめぐまれておらず、生きていくのにせいっぱいです。

それと、働く場も数すくないから、お金の収入もないのです。そういうめぐまれない一人でもいなくなるように私たちが、出きる事をせつきよくにすればいいと思います。

日本では、ほとんどの人が働いています。貧しい人々は、働きたくても働けないのです。

私たちが出来る事は、一円だけでもいいからきふをする事だと思います。

こうして、日本より貧しい人々を減していく事がいいと思います。話は変わるけど、戦争していたアメリカ対イラクでは、アメリカの人々やイラクの人々が何も罪がないのに何人も亡くなっているのが少し、心ぼそいです。

もし一人でも世界平和を願う人がいれば、アフガニスタンやイラク（アメリカ）などだけではなく、日本より貧しい国や人々に少しでもきふをすること大切だと思ふし、国はちがうけど同じ人間なんだから、おたがい助けあつていくことも大切だと思ふます。

## ボランティア体けんにさんかして

小平市立小平第十二小学校 三年 山田佳央子

私は、八月二日、小平社会ふくし会かんでの「ボランティア体けんにさんかしました。いろいろなしゆるいのボランティアを体けんすることができました。その中でいんしょうのようにのこっているボランティアは、「買うゾーン」「集めるゾーン」「手伝うゾーン」「作るゾーン」で習った事です。

「買うゾーン」では、しょうがいをもった人が作ったきんちやくなどを買うことが、しょうがいをもつ人のしゅう入になつたり、はげみになることを知りました。「集めるゾーン」では、古切手などを集めて、それを売つて、こまつた人たちのために使うことが分かりました。「手伝うゾーン」では、目が見えない人のために、新聞などをろく音して聞かせてあげる、というお手伝いがあることを知りました。「作るゾーン」では、目がよく見えないひとのために、字を大きくして本を作りなおすボランティアのことを教わりました。全部とても手間がかかるけれど、よい仕事だと思ふます。

私は、ボランティアの中で、しょうがいをもった人が作った物を買つたりすること、古切手を集めたりすることなら自分にもできそうだと思ふました。家に帰つてさつそく、お母さんから古切手をもらつてはこにためています。早くいっぱいになつて、こまつた人のために使つてほしいです。

私は、こんなかんたんなことでもボランティアになるなんて知りませんでした。ボランティアは人の役に立つことだし、とてもよいことだと思ふます。私はボランティア体けんにさんかして、目が見えない人や、耳の聞こえない人のふべんなことをよく知ることができました。私は、何のしょうがいもないので、べんりな生活ができてよかつた、と思ふました。こまつた人のお手伝いできたらいいなと思つています。

## 私達が今できること

小平市立小平第十二小学校 五年 渡辺幸葉

「みなさん、アフガニスタンや他国などのようにまずしい国を日本とくらべてどう思いますか」かれから私が思ったことを聞いてください。

まず、アフガニスタンの人々は、冬をこすために、衣類が必要で  
す。しかし、全員が、衣類を持っていません。日本では、私達がき  
なくなったりした、服、くつ、などをアフガニスタンにおくるボラ  
ンティアをしています。そのうち三百七十万人の人が戦争で、近くの国に  
住んでいます。水道もほとんどなく、川や泉から水を汲んできます。  
近くに川や泉がないと、はるばる水をもとめて、川や泉まで、歩き、  
運ばなければなりません。電気が、ある所も、ごくわずかです。テ  
レビは、もともと少なかったうえに、タリバンというグループが、  
テレビを禁止したため、国民は、テレビを見ることができません。

さらに、千万個もの地雷があるとされています。ソ連軍との戦  
争、その後の戦争で、地雷を埋められました。世界でもっとも地雷  
が多い国、アフガニスタン。地雷で手足などがない人、けがをして  
いる人も少なくはないです。地雷をうけ、ハンディキャップがある  
人々も一生けん命生きています。また、衣類を送るボランティアや  
ユニセフぼ金など、日本では、そのような活動が行われています。  
戦争で苦しんでいる国は、アフガニスタンだけではなく、他国の人  
も同じような事になっています。戦争がない日本とくらべて、今で

も戦争をしている国々は大変です。私達日本人は、めぐまられていま  
す。さきほど言ったように、まずしい国々に私達ができるボランテ  
ィアをすることによって一つ一つの命がたすかることもあります。  
私達が、食事の時、おなかいっぱいだからといって食べ物を残す人  
がいます。でも、まずしい国の人は、おなかいっぱい食べられません。  
めぐまれていている私達にできることは、たくさんあります。いろいろ  
なことに協力したりすることはいいことです。人々の命をたすける  
事もあるかもしれません。

こうして私達が今できる事があるから人々のくらしを助ける活動  
を一人でも多くの人が協力する事によって、一人でも多くの人が助  
かるかもしれません。

今私達ができることは、たくさんありその活動に協力すれば、い  
つかきっと、やってよかったな！と思える日が来ると思います。活  
動する事によって、まずしい国々の人々が元気になれる日がくると  
思います。

みなさん私達が今できる事に協力してみませんか。



## 私にとってのボランティア

小平市立小平第十五小学校 六年 小田倉由未

私は、「ボランティア」という言葉の意味を深く考えたことはありませんでした。でも、だんだん、興味を持って、参加しはじめたのは、ほんの1年くらい前のこと、小平市のために活動するのは、自分のため、みんなのためになるから、やりたい気持ちでいっぱいになることがあります。それからというもの、こまめに市報をチェックする習慣がついたり、図書館、公民館を多く利用することが、ふつうになりました。ところで、みんなは、ボランティアとは、だれかのために募金をしたり、市内をそうじしたり、老人といっしょに話したり、いろいろなボランティアがあります。

私にとって、ボランティアとは、市の行事とかにも参加すること、ボランティアだと思えます。学校で、もらう手紙の中にも、ボランティアに関係することだったり、一つでも参加して、新しく市のことを知ったり、おもしろい発見をしたり。自分の住んでいる市だから、もつとおもしろくなると思えます。

私は、まだ、小平市のこと全部知らないけど、これからも、ボランティアに参加して自分の目で確かめて、小平市とのふれあいを広げたいです。

自分の心に、小平市の絵が書けるまで。



## ボランティア

小平市立上宿小学校 三年 小川光陽

8月2日に小平福祉かいかんでボランティアのたいけんをしました。一番はじめにいった所は二五〇円のけんをふくろを買ってそのふくろ中にはじめ、もらったお手紙を入れてふくりでした。ぼくがえらんだふくろはみずいろでねだんがかいてあるふだがあつて友だちの仁知也くんは動物のもようがかいてあつておもしろいふくろでした。いろいろなコーナーがあつたけど、一番たのしかったのはうどんを作るコーナーでした。まず手を洗つてこなに水を入れてまぜます。その後ねって、ビニールぶくろを切つたものをしいて足でふみました。その後ローラーみたいな形をしたほうでのばしました。さいごに切つてゆで、たべました。おいしかったです。おかわりもしました。食べた後にかみしばいをよんでくれた人がいてかみしばいの1つお話をつくつた人がその日にきてよんでくれた人たちが

しようかいしてくれました。さいごにひうよしようじようをくれて  
ふくろにいれました。

仁知也くんもひようしようしてもらって、よんでた人が名前をま  
ちがえたのがおもしろかったです。またやってさんかしたいです。

## ボランティアを知って

小平市立上宿小学校 三年 田中仁知也

ぼくは、夏休みの八月二日に、子どものつどい「ボランティア探  
検隊」に参加しました。ここでやることは、八つのゾーンに分かれ  
ています。はじめに買うゾーンで、たんけんのせつめいをしました。  
せつめいが終わった後、三百円のけんで巾着を買いました。買うこ  
とで、ボランティアができることが分かりました。次は作るゾーン  
に行きました。ここでは、布で絵本や地図を作ることがボランティ  
アになることを知りました。次の集めるゾーンでは、集まった使用  
済み切手や赤い羽のぼきんをしてお金を集めていることを知りまし  
た。次の守るゾーンでは、天ぷらを作った後の油で石けんが作れる  
ことを知り、おみやげにその石けんをもらいました。教えるゾーン  
では、おり紙でトトロを作り、お年よりとふれ合いができることを  
知りました。次の手伝うゾーンは、目が見えない人のために声をろ  
く音して伝える方法を知りました。次の伝えるゾーンでは、うどん

作りを教えていただきみんな食べて、紙しばいでは手話も使って  
読んでくれました。ぼくは目の前で手話を見るのははじめてでした。  
さい後のふれあうゾーンでは、ローリングバレーボールで障害のあ  
る人たちと対決しました。障害のある人たちもいっしょにできるロ  
ーリングバレーボールと言うスポーツがあることを知りました。対  
決してとても強かったのでおどろきました。

子どものつどいに参加して、ぼくが一番思い出にのこっているこ  
とは、手伝うゾーンで自分の声をろく音した後聞いたことです。  
聞きとりやすい声だったのでよかったです。この日一日参加してい  
るんなボランティアがあり、ぼくにもできそうな気がしました。い  
つか楽しくボランティアに参加してみたいと思いました。とても楽  
しい一日でした。

## 大きなカンチガイ

小平市立上宿小学校 六年 荒井優一

障害を持つている人って可哀想だな。だって身の周りのことが充  
分にこなせないもの。誰かの助けがなきゃできないことがたくさん  
あるはずなもの。ぼく、そういうふうにならなくてよかったなあっ  
ていう前のぼくの考え。——今思うと最低だ。ぼくは障害を持つ  
ている人々に大変失礼な考え方をしていたんだって今さら気づいた  
ぼくがいたんだ。向こう側には、前と同じ考え方をしているぼくが  
うつすらという。ぼくは前のぼくを消してやりたい。でも消せない。

なぜだろう。言いようのない違和感がぼくの頭の上でうずを巻いている。どうしたらいいのだろう。どうしたらあやつを消せるだろう。

——ボランテアだあ！そうだよ。ボランテアを積極的にやっていけばいいんだよ。そんな大きなことじゃなくてもいいんだ。身近なことをやっていけばいいんだ。ってぼくは、思い立ったのだった。

ボランテア、ってどういうことをするんだろう、老人が、困っているときに助けてあげること。もちろんそれはボランテアだ。しかし、そんなに都合よく(?) そういう老人に出くわすことがあるのだろうか、否、ないだろう、じゃあどうすれば……。結局なにも出来ないまま時はようしやなく過ぎていった。だが、ある日。一つの事件がおこった。ぼくにしては、だが。その日ぼくはバスに乗った。一つ席が空いている。ぼくはそこにすわった。次の停留所に着いた。とおばあさんが乗ってきた。ぼくは「あつ」と思った。ぼくはそのときさつと席を立て、何もいわず、近くの手すりにつかまった。おばあさんが座るかと思っていたが、そこには違う人がすわった。おばあさんは立っている。「え」?

この体験があったあと、ぼくは席をゆずらなくなった。ぼくの向こう側にいた前のぼくの姿がはつきりと見えるようになってきた。

またある日のこと。ぼくはまたバスに乗った。また次の停留所。またおばあさんが乗って来た。ぼくは見てないふりをする。しかしだれも席をゆずらない。おい、おれ、今がチャンスだ。と今のぼく。席をゆずったところでまたあなるのが落ちじゃねーか。と前のぼく。勝つなら今だ。今のぼくは立ち上がる。今度はおばあさんに声をかける。「どうぞ」おばあさんはっこりし「ありがとう」といっ

た。その一言は、風のようにぼくの心の中にある暗雲をふきとばし、前のぼくをふきとばした。今、ぼくの顔はピンク色に染まっている。

これがボランテアだった。それからぼくは、募金を積極的にやるようになった。お金を入れてあげると、募金をしている人はこういう「ありがとうございます」って、笑いながら。この世の中には障害を持った人がたくさんいる。でも、その人達はけっして不幸でもない。ぼくらと対等な人間なのだ。これが今のぼくの新しい考え方だ。

## 「私の考えるボランテア」

小平市立上宿小学校 六年 菊島万純

私は、あまりボランテアについて考えた事がないので、今回、作文を書く事で、少しボランテアについて、考えてみようと思いました。

先日、電車に乗って出かけた時の事です。少し電車が混んでいたのですが、私は、座る事が出来ました。そこへ、おばあさんが乗って来て、私の前に立ちました。(席を、ゆずってあげた方がいいのかな?)と、思いましたが、はずかしくて、その勇気が出ませんでした。すると、となりに座っていたお兄さんが、席をつめる様に、周りの人に言ったので、おばあさんは、座る事が出来ました。(優しいお兄さんだな。こういうのが、ボランテアなんだろうな。)と、思いました。どうしたら、このお兄さんみたいに、自然に親切にできるのかと、考えてみました。お兄さんが、おばあさんに、声をかけられたのは、勇気と、優しい心があったからだ、私は考えます。

もし、お兄さんに、勇気と、優しい心がなかったら、おばあさんは、座れずに困っていたかもしれません。なので、優しいお兄さんがいて、よかったですと思います。

私が実際に行った事のある、ボランティアについても考えてみました。年に二回、青少対によるクリーン活動も、その一つだと思いますが、それに参加した事があります。自宅から学校までの道を、燃えるゴミ、燃えないゴミに分けながら、ゴミを拾うのですが、タバコの吸いながら、空きカンなどのゴミが、多かったです。“ちょっとだけなら・・・。”とか、人がすてるから、自分も・・・。”という気持ちの積み重ねが、ポイすて”につながるのだと、思います。ボランティアは、やる気になってやるのではなく、ほんの少しの、思いやりと勇気、そして、一人、一人の心がけが、なにより大切な事なんだと思いました。これからは、自分なりの、ボランティアを、はじかしながら、勇気を持って出来る人になりたいです。

## ボランティアってどうゆう事

小平市立上宿小学校 六年 嶋田実季

私は、ボランティアってどんな事があるんだろうと思った時期がありました。五年生の時の私の思ったお話です。私はまず、紙に、書き出して見ました。①こまっている人を助けてあげる事②小さい子のおせわ③おとしよりとのふれあい、ここまででえんぴつが止ま

ってしまいました。いざとなつて考えて見てもあんまり思いつきませんでした。それで私はこれまでにどんな、ボランティアをしてきたか考えることにしました。小学校に入ってからでは、一年生、「ボランティア」とゆう言葉さえしりませんでした。二年生、「ボランティア」とゆう言葉は知っていても、やったことないし、どんな事？って思っていました。三年生、このへんから「ボランティア」ってどうゆうことかわかったような気がします。四年生、小学校の中でも、上の学年になったこともあり、すこしずつボランティアをやったりしました。その時、やったボランティアは、まず入っていた子ども会の町内のごみひろい、あとは・・・。あれ、もうないかもしれませんが。あっそういえば、総合の時間に育てたたいこんを、身体障害者の方々がお仕事をしているところへもっていった事もありました。私が「ほかにないかなあー。」と考えているときに、うちのお母さんがこんな話をしてくれました。「みき、『チョコットボランティア』って知ってる？ちょこつとい事するってゆう意味なのよ。訳して『チョボラ』、ボランティアのことについて考えてるなら、チョボラについて考えてみるのいいかもよ！」うちのお母さんはそれだけ言っていてしまいました。私は「そうか！チョボラだ！」と思いました。「ちょこつといこと、なんだから、これも！これだつてさうだよー。」といろいろな事がいっぱい頭の中に思いうかびました。おちているゴミを一つ拾うだけでもチョボラ。なんでもチョボラ、チョボラと思つてしまえばたのしいものです。ボランティアってゆうものは、大きい「ボランティア活動」とゆうものではなく「チョボラ」とゆう小さなボランティアのようなものから始めれば、自分も相手もハッピーな気分になれるすてきな事だと思います。わたし

はこれからもほかの人に「ありがとう！」ってゆわれなくても自分もハッピーになれるぞ!」と思つて少しずつやっていけたらいいなつて思います。

## ボランティアの意味

小平市立上宿小学校 六年 中根由美子

ボランティアと聞くと、お年寄りや障害者のお世話をする、という事が思いうかぶ。だが、ボランティアは自らすすんで人のためになればいいのだ。だからお年寄りや障害者のお世話をするのもボランティアだし、親せきなどに小さい子がいたらその子のめんどうを見てあげるのも立派なボランティアだ。そのほかにもお金をするのでも、かきそんじはがきをき付するのもボランティア。でも、一番ためになるのは、やっぱりお年寄りや障害者のお世話だろう。私もお年寄りのお世話をすることにした。理由があり山梨県でやりました。そこは、りぼんデイサービスセンター。ふだんは十七人ぐらい人がいるけど、その日はおぼんということもあって十人ぐらいしかお年寄りがいなかった。そこはけっこう広くて、シャワー室に車イスのままシャワーをあびられる機械もあった。私は午後からだだったので

始めの仕事はレクリエーションの準備だった。その日はボーリングとカラオケだった。準備といってもボーリングのピンを出しただけだけ。

センター(略)にいる人たちの(職員さん)がすぐおもしろくお年寄りの人も私も大笑いで何のために来たのかわからなくなるぐらい本当に笑った。そのあと、カラオケの前におかしをくばった。みんなによるこぼれて、とてもよかった。カラオケは、私の知らない曲しかなかったけど、うたっている人はとても楽しそうだった。そのセンターは三時までで、私のボランティア体験はすぐおわってしまった。けど、職員さんの話では、お年寄りを笑わせるのも楽しくすごせるためには必要と言っていた。私は。そうなのかとなつとくした。

私もお年寄りに何か役に立ちたいな、と思わせる一言だった。

## ボランティアのいいところ

小平市立上宿小学校 六年 服部亜紀

わたしは、「ボランティア」には、いろいろ、いいところがあると思います。一つは、「ボランティアを通じて、いろいろな人達と仲よくなれる」ということです。ボランティアが、大人の人や小さい子と、仲よくなる「きっかけ」になってくれるとおもいます。二つ目は、ボランティアをしている間、「ボランティアって、こんなことをするんだ。」「いつから始まったんだろう。」「と、いろいろなことに興味わくと思います。いままで、わたしは、学校や地域でいろいろ

やったことがあつたけど、ボランティアをすると、人を思いやる気持ちが増えていくと思います。それは、お年よりの方たちでも、ご近所の人たちでもおなじです。お手伝いしたり、花や木を植えたりするの、ボランティアに近いことだと思えます。わたしは、もつと、地域の人たちがボランティアに興味を持ってほしいと思えます。その理由は、みんなが少しでも、ボランティアをしたらどうなるのか、ボランティアはどんなことをするのかと思つてくれるだけでも（ボランティアをやつてみたいなあ。）という気持ちが大きくなつてボランティア活動に参加してくれる人たちが増えてくれると思うからです。一人だけでも、やるとやらないでは、とつてもちがつてくると思うので、ボランティアをやつてみたいという気持ちがある人がボランティアをやってくれると、周りの人たちにその気持ちも伝わつてくると思えます。一人一人がボランティアを知つて、やりたいたいと興味を持つて、人との仲をよくして、まちが明るくなればいなどと思えます。少しずついいことをして、だんだんみんなもまちも明るくなれば、とても楽しい気持ちでボランティアができると思えます。そして、みんながまちのため、みんなのためと喜んでくれる人達のために、ボランティアができるようになればいいなあと思えます。

## 私の考えるボランティア

小平市立上宿小学校 六年 水上 彩

私は自分が住む町小平でゴミ拾いそうじというボランティア活動

をしてみて、本当にビックリしたことがありました。それは、いったい何をすればこうなるの？というぐらいたくさんゴミが捨てられていたことです。私はそのことについて、じっくり考えてみることにしました。

まず、どうして道路などゴミ箱以外の場所にゴミを捨てるのか、という点です。私は以前、自分があめの包み紙などを道にすてしまったことや、捨てている人を見たことがあります。いちいちゴミを家に持ち帰るのがめんどくさい、とか自分一人が捨てたつて何も変わることはない、など、原因は様々です。私は、きちんと分別して捨てるというだけのことが「ボランティア」につながるのではないだろうかと思つたのです。だれでもきたくない町より、きれいな町を好むと思います。そのためには私達一人一人が日々環境について考えるべきだと思えます。考えるといつても難しく考えずに、身近にできることは何か、それを考えて、知ればいいと思えます。つまり、ゴミはその場に捨てずに持ち帰つて捨てようとか、ゴミになるようなものは出来るだけ買わないように心がけようとか、そのようなことを知り、実際にやつてみる、それが今の世の中になりにくいことだと私は思えます。

次に、ボランティアで草むしりや、同じくゴミ拾いをして下さつてくれる方々についてです。

私はほんとうにこういうことをして下さる方々がいて良かったなと思えます。もしいなければ、この小平市もゴミの山になつていて思えます。でも、それをしている人は、ほとんど中高年の人たち、といういんしょうが強いですが、実際そのほうが多いです。私の方も少し小さいころ、ボランティアでゴミ拾いなどをしている人がい

るからこの町はきれいでいられるんだなあと思っていたけれど、自分もいつしよになってやろうとは思いませんでした。でも今は、自分の住んでいる地球がきれいでほしいを思うのに、ゴミ拾いなどのボランティアをやらないのはおかしいを思うようになりました。だれか一人がやっているのを見ているのではなく、自分の住んでいる町がきれいでほしいと思うなら、自分にできることから始めよう、今ではそう思うようになりました。

身近にできることは何か、考え、そして知り、実際にやってみること、地球上のだけれどもボランティアをする、というやさしい心をもつて、できることから始めようという気持ちを持つこと。これが私の考えるボランティアです。ゴミ拾いができなくても、ゴミになるようなものは買わない、それでもボランティアになると思います。私の考えるボランティアを優しい心を持ってやり続けたいです。

## クリーンスタッフのこんどうさん

東京創価小学校 三年 ながい ひろこ

こんどうハルイさんは、今はびょういんからたいいんしました。たいいんするまえは、つらいおもいびょうきにかかっていました。一年前わたしが二年一組のときこんどうさんが二年一組にはいつてもらってインタビュアーやこんどうさんのおはなしをきいたりしてもんコーナーもしました。そのなかで、一ばん心にのこったのは、しつもんコーナーの、なんのいろがすきですか？でした。こんどうさんはこういいました。

「うーんピンクいろかな!」

わたしはそのあとうちにかえってぜんぶはなしました。もちろんなんのいろがすきですかのこともはなしました。おかあさんは、こういいました。

「まーわかいわ、ね。」

といいました。

「ふふふ」

じつは、おかあさんもピンクいろが、すきなのです。

「じぶんもピンクいろがすきでしょう?」

「・・・」

「ま、それもそうだったわね。」

そして二年前一年一組のときお手つだいもよくしました。だってこんどうさんのいっしょうけんめいがんばっておそうじしているのを見ると、ついおてつだいをしています。

そうして三年生になってくらすがあで二組になりました。先生がこういいました。

「こんどうさんは、いまにゆういんしてるのよ。」

そのとき先生は、なみだをながしていました。わたしは、はやくなおしてください。そうねがいました。先生のおはなしをきいていると、こんどうさんがびょういんのベットでびょうきとたたかっているようすがめにかびました。

おそうじのしごとは、がっこうをきれいにするのでたのしそうです。ほんとうはたいへんです。こんどうさんは、いつもあせをかいていました。モップをつかったあとに、こしをおさえていました。びょうきでつらいときも、こうかいじゅぎょうのまえの日、がんば

っておそうじをしてくれました。

おかあさんがいつていましたが、そうか小学校一き生から二十八き生まで、ぜんぶの子どもがこんどうさんから、こえをかけてもらっているのよ。こんどうさんは、ほめる天才よ。こんどうさんからほめられない人は、いないのよ。

こんどうさんは、小さな一年生にも

「ありがとうございます。」

とおれいをいいます。わたしにもていねいにおれいをいつてくれます。

こんどうさん、はやくよくなってまた、いつしよにおそうじしようね。

まっています。

おわり

## おそうじのお手つだい

東京創価小学校 三年 のじり はるか

私は、八月三日、早おきをして、朝七時三十分ごろから、たま川のおそうじをしました。

どこをおそうじをして何をひろいあつめるかは地区でグループがきまりました。

私はかんを拾うかかりでしたが、かんがあまりなかったので、花火やタバコ、その他いろいろひろいました。

花火はそこらじゅうたくさん落ちていました。

たばこもたくさんおちていました。

たまにはきけん物まであっておどろきました。たとえば、こげやけたぐん手、ライターのはへんなどいっぱいありました。

その日はとてもあつかったのであせをたくさんかいてしまいました。

おそうじをするのたいへんでつらいけど心のごみを拾うみたいで、拾えば拾うほど心がきれいになる感じがしました。

私は三十分ほどやるとつかれてしまいました。

でも、みんなが、がんばっているすがたを見ると、おじいちゃん、おばあちゃん、大人、子どもまで、あせがきらきら、星のように光っていました。

私は、それを見て、元気がわいてきて「がんばろう。」と思いました。

みんなで、力を合わせたので、一時間ぐらいでおわることができました。

私はなぜ、ゴミがふえるか考えてみました。

一人一人花火やタバコをもち帰らないからだと思います。きっと「べつに少しぐらいいいかな」と思い捨てていくからだと思います。

なぜゴミをもちかえらないか、とてもふしぎです。一人一人が気をつければ、地きゆうはよくないと思います。

私は、これからおちていたゴミをゴミばこにすてたり、自分たちがもってきた物をきちんともって帰るようにしたいです。

もしまた、地区でのおそうじがあつたらぜひさんかしたいと思いました。

## 勇気を出して

東京創価小学校 六年 石田茂美

「ガタンガタン。」

夏休み中のもつてもあつい日、私は、部活のサッカーの練習に行  
くため、電車にのりました。

電車にのると、人があまりいなくて、ガラガラでした。

いつもはこんでいてすわれないほどだったので、

「やったあ今日は、すわれる！」

と、思っていたら、

2、3 駅たつと、だんだんこみはじめました。

私は、

「先にすわっておいでよかったです。」

と、思っていました。

ところが、私の前にとしおいたおじいさんが立ちました。

「どうしよう、ゆずるべきかな？」

おじいさんは、こちらをゆずってほしいような目で、見えます。

私もゆずりたいのですが、あまり勇気が出ないのか、なかなかせ

きを立って「どうぞ。」と言えません

とうとうおじいさんは、おりてしまいました。

ほつとしたけどゆずれなかった私がイヤになりました。

そこに次におばあさんがきました。

でも、まだ勇気ができません。

なので「どうぞ。」とは言わなかったけど、そのせきを立ちました。

おばあさんは、にっこりと笑ってすわりました。

「どうぞ。」とは言えなかったけど、席をゆずれて良かったです。

少しのことでも勇気を出せた自分が少し成長したような気がしま  
した。

こんどからは、また勇気を出して、自分より年上の人に席をゆず

りたいと思います。

こんどは「どうぞ。」まで言えるといいです。

## 喜んでもらえた！

東京創価小学校 六年 押金光湖

三月二十八日この日はおばあちゃんにつれてきてもらって、ボラ  
ンティアをしました。

何のボランティアかと言うと、老人ホームでのボランティアです。

私のおばあちゃんは、ダンスをやっている中で、『さくらんぼ  
グループ』という、グループを作って、月に一回ぐらい、いろいろ  
な老人ホームを回って、ボランティア公演をしています。

私は、この前から時々、いっしょにつれてきてもらって、いとこ  
といっしょに、四人で、『なるこ』という楽器を一人一個ずつ片手に  
持って、ミッキーマウスマーチのパラパラの曲でおどりました。

私は、『キッズジュニアグループ』という名前で公演に出させても  
らいました。

十二月二十五日にも、やっていたけど、その場所より、とっても  
広かったので、私達はすっごくきんちょうをしていました。

リハーサルでは、大人のさくらんぼグループといっしょに練習させていただきました。

リハーサルでは、一回もまちがえずに曲を通せました。

そして、いよいよ本番が来て、私は自分達の出番をまっています。た。

その時も、介護ヘルパーさんは、ずーっとすわって見ているのではなく、お年寄りのおじいさんやおばあさんの体調を気付かつてあげていて忙しそうでした。

そして、私達がおどりはじめると、みんな、にこやかな表情です。つと、私達のことを見てくれました。

なるこのダンスでは、少しまちがえてしまいました。

しかし、今回はまちがえることとかではなく、お年寄りに喜んでいただけたので、とってもうれしかったです。

## 身近にある食料をボランティアに

東京創価小学校 六年 高橋直人

ぼくは、生まれてから食べ物に困った事はあまりありません。しかし、海外では、食べ物食べられずに、苦しんでいる人が数多くいます。

ぼくの、お母さんの友達は、最近、マーケットで働きはじめました。その人の、マーケットでの仕事は、店頭の商品を、出し入れする事です。しかし、賞味期限にせまると、食べ物を処分してしまいます。賞味期限のちかいかこう食品でさえ、処分してしまうそうです。

す。

たとえ、マーケットの店員でも、それを家に持ちかえる事はできません。

このような食べ物を、世界のうえて苦しんでいる人たちに、くばってあげられないでしょうか？いらなくなった物をあげるように、ひよつとしたら、しつれない事かもしれないけれど、うえ死にするよりまだ、ましかと思えます。ぼくはこのことを、お父さんに相談したら、「それを運ぶ、運ばん費用と人件費がかかる」と言っていました。たしかにお金はかかりますが、不可能ではないので、そのようなシステムをつくるべきだと思います。

食べ物にめぐまれていない国はたいがい、戦争がよくおこる国です。そういった国の人々は、食料を求めていると思えますが、何よりも、「平和」を求めていると思えます。しかし、世界平和をうったえ、生きていくためにも、食料などはかせないのです。

いろいろな金運動もされていますが、はたしてそのお金が、どの位の時間で、どのように、めぐまれない国の人達に役立っているのか、ぼくはこれから、もっと意識して、知っていきこうと思えます。一人でも多くの人が食料にこまらずにいきていけるためにも。

## 募金について

東京創価小学校 六年 田口弘司

僕の学校では、ボランティア活動の一環として「ユニセフ募金」

を実施しています。

ユニセフとは、国連児童基金の略で、主に戦災国の人々や難民の人々を対象とした、救済や福祉、また、健康改善を目的とした活動を行っている団体の事です。

学校では、毎年募金を実施して、集まったお金をユニセフに送って団体の活動に役立ててもらっています。

ところで、僕達は普通に学校へ通い、一日三食の食事もある事ができ、もちろん明日の命も保証されています。

しかし、アフリカなどでは早魃に続く早魃で食べる物も無く、ましてや、部族どうしの争いなども発生し、総人口四億五千万人のうち三分の一が飢えに苦しんでいます。ところが、日本では最近の人々は全く飢えという事を知らないのです。

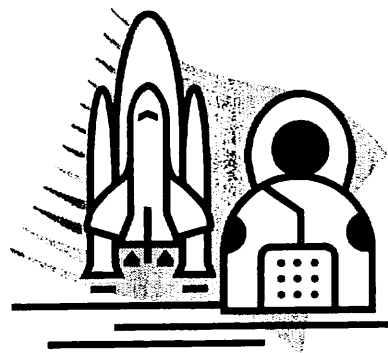
これからは、アフリカのような発展途上国の人々に対して、僕達一人一人が何出来るかを考え、実行していく事が大切だと思います。

そして、その第一歩としてユニセフ募金を僕達は実施しています。最後に、ユニセフ募金の大切な所は金額ではなく、そのお金に、思いやりの気持ちを込める事だと思います。

お金だけなら、大きな会社などに寄付を求めればすむ事です。

しかし、お金だけではなく、一人一人が自分から率先して、思いのしつかり込もった募金をする事でその人の思いが援助を受ける人々に伝わるはずです。

これからも、自分で進んで国際的なボランティアに協力していきましょうとおもいます。



中学生の部

## 「ボランティアの楽しさ」

小平市立小平第一中学校 二年 菊田 千歳

私は、まだボランティア部に入って日が浅い。ボランティア活動はまだ私にはわからないことがたくさんある。

私が入っているボランティア部は老人ホームや公共施設でのお祭りの手伝いに行くのが主である。最初老人ホームに行った時、おじいさん、おばあさんどう話せばいいのかすごく困った。会話が難しい会話もせずにおじいさんが来た時は本当に悔しかった。楽しんでもらうのが目的なのに重い空気が一緒に話した人との間に流れていた。でもおじいさん達と歌ったり、話したりするのは楽しかった。そのぶん自分の会話のなさをうらめしく感じる。

その老人ホームでやるお祭りは、お年寄りのお世話だった。部員一人一人がお年寄りにつき、食べ物や飲み物を持ってくるのだ。正直車いすの横でしゃがんでるのはつらかった。でも自分のついてお年寄りがよるこんでくれたのですごくたのしかった。

自分の身がどんなにつらくとも、与えられた事をしつかりやりとげないといけない上に相手は人だ。体だけじゃない、感情も必要なのだ。そんな大変な仕事やりたくないとは思わない。その時折見せるお年寄りのうれしそうな笑顔が本当に私にはうれしからだ。ボランティアをしてみてお年寄りに教わった事はたくさんある。これからもボランティアをいっぱいやりたいと思う。

## 私達にとってのボランティア

小平市立小平第二中学校 三年 阿部田 由奈

私たちがよく日常で使っている言葉「ボランティア」。ボランティア活動、ボランティア精神などと使われていますが、ボランティアの意味は、社会福祉事業で奉仕し、活動する人達のことをさしています。つまり、無償で奉仕する人のこと。今の現代の多くの人々はこんな事できないでしょうね。

学校で総合の時間が増えました。その総合の時間で地域の掃除をする、という事がありました。皆は嫌々でやっていました。これは無償で奉仕する、いう精神が無いからなのでしょう。これでは、地球の自然が壊れていくのは当たり前でしょう。そう、私達に必要なのは、無償に奉仕をするという精神なのです。

さて、最近はこの地域でも、ゴミ問題が起きています。ゴミの置き場が違ったり、ゴミの分別ができていなかったりと、自分一人くらい大丈夫だ、と思っている人達が多勢いますが、この人達が「環境破壊だ、なんだ」と言っても説得力も何もへったくれもありません。机でただ討論している人達も同じ。まずは行動を！と思いますが、そう簡単には行動に移せないのが人間です。だから、地球の自然がどのくらい危険なのか、知らなければなりません。それはどうすればいいのでしょうか。ニュースにするとか、総理大臣が言うなどしてくれば、日本はボランティア精神が芽ばえるだろう。しかし、それは不可能に近い。だから、そこで私達に何ができるでしょう。不可能を可能にできるのか。私達はとても無力です。それは、行動を起こさないからだ。つまり、

アクションを起こすことを始めよう。毎朝、今日のごみの分別は何かしら。あ、ビン・カンだ!!でも、いいんです。とても当たり前的事でも、それだけで地球を助けることができるのです!しかし、それだけで立ち止まってはいけない。新しい自分ができる事を探し、続けることが大切なのです。

最後に、ボランティアをしたからと言ってえらそうにする人は、ボランティアをしなくて良ろしい。ボランティアは無償に奉仕する意、進んでやろうと思う心が、大切なのです。

## ボランティアについて

小平市立小平第二中学校 三年 伊崎 里佳

ボランティアというのは、人のために何かすることだと思えます。

私は、テレビで「24時間テレビ」という番組をみて、ボランティアには、色々な種類があるんだなあと思えます。

例えば、障害者の人を助けたり、お年寄りの介護をしたり、ユニセフ募金をしたりするなど、たくさんの方のボランティアがあります。

私は、小学生の時、ユニセフ募金をしたことがあります。1円でも多く募金をすることによって、多くの子どもたちが助かることはいいいことだと思えます。

私はこれからも、募金をしたいと思えます。後、私がやってみたいボランティアは、ゴミ拾いです。昔、私は廃品回収をしたことがあります。いろいろな新聞や雑誌をリサイクルすることです。そして、リサイクルされた物は、新しい商品として売り出してまたリサイクルをするこの繰り返

返します。

だから、リサイクルはよいと思えます。

私もこれから、ゴミの分別をしてリサイクルしたいです。

## ボランティア活動に対する考え

小平市立小平第二中学校 三年 伊藤 薫梨

私は、ボランティア活動をしてみたいと思っています。ボランティア活動することは人のため、地球のためになると思うからです。

しかし、前の私は誰かのためになるからしたいのではなく、そうじをするのが好きだからやりたいと思っていただけでした。実際にそのような気持ちで小学生の頃にボランティア活動をしました。その時やったのは、アルミ缶とスチール缶を分別するというボランティア活動でした。確かに私にとつて楽しかったし、帰りにお菓子もらったのでやつてよかったなあ、と思いました。

けれども、今の私の考えは中学校で勉強しているうちに変わってきました。私の学校では各学期の終わりに自分の生活の記録をつけています。その中に「ボランティアはちゃんとできたか」という項目があります。そこに私はいつもぼつ印を書いていました。私は中学校に入學してから一度もボランティア活動をしていないのです。私はボランティアをして、人のため、地球のためになるのならしようと思えました。中学校に入ってから、ボランティアについて学んだからです。

例えば、木が伐採され二酸化炭素が増え、地球温暖化が起きている。そこでボランティア活動を行っている人たちが木を植えて二酸化炭

素を減らそうとしている事を学びました。また、地球温暖化を防ぐことは赤道に近い所に住んでいる人々の生活を良くすることにつながるという事も学びました。

だから私はより良い生活を多くの人が送れるようにボランティアをしたいと思いました。もう卒業してしまうので高校生になったらボランティア活動をしようと思いました。

## すてきなボランティア

小平市立小平第二中学校 三年 大谷 亮介

ボランティアは、いろいろなボランティアがありますが、良いボランティアだと思ったのは、老人の介護と地域をきれいにすることです。

理由としては、自分でうまく歩けない老人の方と一緒に手をとって、やさしく歩いているボランティアの人を見て、すごいなと思い、あんなにも老人の歩くスピード、老人をきづかう言葉など、おちついてこなしていたのに、びつくりしました。

もう一つは、地域をきれいにすることです。だれに命令されるわけでもないのに、ゴミを拾い、ゴミ箱に捨てる。それだけのことも、みんなが気をつけていけば、ゴミを捨てる人もいなくなり、動物が安心して住める川、山になると思います。地域の草木も増えて、空気もよくなると思います。

僕が思うことは、一人一人の地球を大切に、自然を守ると思う意志が今の日本、いや世界に必要だと思っています。

老人の方々をきづかうという人の気持ちを考える事、自分のために、

世界のために、自然を殺していかずに、助けて増やすことが大切です。このような、大きなボランティア、小さなボランティアを世界のみんなができれば、どんなに、幸せな、すばらしい世界になるだろう。おくれてもいい、これからでもいい、一人一人の心が自然を作っていくと思います。

## ボランティアって楽しい？

小平市立小平第二中学校 三年 笠鳥 達也

ぼくが、最初に「ボランティア」を知ったのが小学校一年の時だった。

最初は、ボランティアを知らずにボランティアをやっていた。とても変だが事実なんだ。ボランティアではなく自分としてはただの手伝いだと思っていた。一番多くやったボランティアは、地区のそうじ活動だ。地区内を台車でかけ周り、道端に落ちているゴミを、各自配られたゴミ袋に入れ、決められた場所を集める。終わった後に「おつかれさまでした。」と言い、ジュースをもらえた。小さいときの自分は、ジュースの目的と、友達みんなと楽しくやれるということをやっていた。

それから数年後、またボランティアをやることになった。自分にとってボランティアは友達とやってもおもしろいことかと思っていたが、今回は、ゴミではなく、新聞紙を集めるという重労働な内容だった。ただ新聞紙を集めるというふうには聞かなくても地区すべての新聞紙を集めるとなるとそうとうな重さになる。それでもやはり、近くにいたのが友達だった。友達といっしょにやることで仕事ははかどった。かかった時間は4時間かかった。それぞれ台車に乗せた新聞紙を決められた場所に積

みあわせていくと、予想をはるかにこえるほどのピラミッド型になった。それは約10 mほどになり頂上は無理だが、7 mぐらいまでなら登れるくらいの山ができた。そしてジューズをもらい友達といっしょに帰った。ボランティアは、自分のためではなく、地区の人々にかぎらず、もっと遠く広く見つめなおす必要があるようだ。

## 「ボランティア」

小平市立小平第二中学校 三年 勝野 桃子

ボランティアとは例えば辞典で調べると、「社会福祉事業などで奉仕活動をする（人）」と一言だけでまとめられているけれどもたくさんの種類の奉仕活動があります。

例えば終戦したばかりのイラン戦争のアメリカ兵の様な大役をもボランティアの一つになります。

ボランティアは無償の奉仕。その人の、具体的に利益になる様な見返りを望まない、素敵でとても良い行為だと思えます。

よって私達学生もなんらかのかたちでボランティアをすべきだと思えます。

しかし前半に述べたようなボランティアは私達には無理なことなのでもう少し身近なことにしようと思えます。国（世界）のためではなく、地域などに規模を変えてみると私達にはちょうどいいと思えます。

地域に対するボランティアと分類してもまだまだたくさんの種類があります。大変なことだから少しの気遣いで出来る程の些細なこと。その中から1人1人自分出来るボランティアを見つけて実行するのがいいと思

ます。

## ボランティアをしてみ

小平市立小平第二中学校 三年 北原 研二

ぼくが今までに色々なボランティアの話を知ったり体験してきた中で、一番心にのこっているのは小学校の頃にやった地域のゴミ拾いです。

初めに先生に地域のゴミ拾いをするという話を聞いたときは、何でこんなことしなくちゃいけないんだよ、と思っていたけど、実際にクラスみんなと地域のゴミ拾いをしてみると、友達とどっちがゴミを多く拾えるか競いあったり、ゴミを探して歩きながら友達としゃべるのがとてもおもしろかったのを覚えています。

みんなボランティアと聞くと、自分には関係ないや、とか自分一人がやらなくてもだれかがやってくれるよ、と言うけど、みんながそんなことを言い出したら最後にはだれもやらなくなりボランティアという言葉が世の中からなくなってしまう。だから、自分くらいとかだれかがやるよとかの他力本願ではなく、多すぎて困るといふことはないのだから、一人一人がやる気になってくれれば地球はもっと良くなり、人にとっても自分にとっても住みやすい環境になっていくと思えます。

## 「ボランティア活動について」

小平市立小平第二中学校 三年 竹内 彩

私が今までやったことのあるボランティア活動は主にゴミ拾いなどの簡単なものでした。一見、単純で細かなことのように、思いますが、私はこんなことでも、地域や町、うまくいけば地球の問題だつて救うことができると思います。

例えば、地球温暖化です。この問題を解決するにはまず、緑を増やすことだと思えます。ただ緑を増やすだけでなく、土を増やして地表を涼しくすることが一番だと思えます。しかし、私たちにはこんな大きなことは、金もかかるし、なかなかできるものではありません。先日、東京でみんなが打ち水をしようという行事がありました。私はこれを見てすごくいいことだと思いました。これだけでも、地表の温度は下がるのです。

もう一つ、私が例に上げることは、最初でも少しとりあげた「ゴミ問題」です。まず地域でできる簡単なボランティアだと思えます。

ゴミが多いということは、その地域や国の人々の意識がうすいということだと思えます。だから、そういう一部のゴミをポイ捨てするような人にも、ゴミ拾いという小さなボランティアをやらせてみて、少しでも自分がやってきたことの反省ができれば良いと思えます。

私は、私達がこれからやらなければならないことは、ゴミを減らし、緑を増やし、人々が快適に過ごせる地域をつくることだと思えます。

## 自分の生活と地域活動

小平市立小平第二中学校 三年 谷口 愛実

私が住んでいる地域では時々、日曜日に「クリーン作戦」という活動を行います。朝早くから多くの人々が家から学校までの道のりに落ちているゴミを拾い、学校に集めます。そういう自発的に行動する人を見ると励みになります。

しかし、近ごろの人は、大人でも子供でも、他の人のことを考えず、自分の利益ばかりを重視することが多いのではないのでしょうか。例えばこの世の中にいじめが存在するのもそのことに通じるでしょう。

それを直すには、小さな頃から親にきちんと教えてもらわなければいけないと思えます。周りの大人たちが手本を見せれば、子供はそれにならうでしょう。「自分だけがボランティアをしても何も変わらない」という思いを捨てて、積極的にボランティア活動をするべきだと思います。

## ボランティアをしてみて

小平市立小平第二中学校 三年 滝島 由香里

中学二年の時に、地域別でゴミ拾いをしました。

グループを作り、自分の家の地域をキレイにすることにしました。私のグループは自分入れて3人です。計画を立て、ゴミ拾い当日、太陽がでて暑かったけど、ゴミ袋をもち、道の隅から隅のゴミを拾っていききました。ゴミは、食べ終わったお菓子の袋やカン、タバコ、ティッシュ

などが落ちてました。1番多かったゴミはタバコで、どこを歩いてもタバコだらけでした。子供が道にゴミを捨てたりしたら怒るのに、大人だって同じことをやっているから人のこと言えないと思った。

今回のゴミ拾いで、自分の地域が少しでもキレイになって嬉しいです。また機会があればゴミ拾いをして、小平を少しづつキレイにしていきたいです☆

## 私のボランティア活動

小平市立小平第二中学校 三年 虎岩 知穂

私は八年間アメリカに住んでいた。その八年間で色々なボランティアを経験した。

始めてボランティア活動を始めたのは小学五年生の時だった。老人ホームに行つて、自分たちでお金を集めて買ったベータフィッシュという魚を渡した。その魚は、植物が上に乗ったビンにさえ入れておけば自分で生きていけるので世話がいらないのでおくれたのだ。それを一部屋ずつ手渡していった。

一番印象に残っている活動は毎年クリスマスにクラス別に行った、アドプト・アン・エンジェルだ。毎クリスマス、デパートなどに親のいない子供たちの名前を書いた紙がクリスマスツリーに飾つてある。その紙を取った人たちはその子供たちにプレゼントを贈るのだ。それを、私の七、八年生のクラスは二人ずつ取った。期限は一ヶ月だけだったのに二年続けて、車二台分のプレゼントを皆で集めた。おもちゃも、もちろん山ほどあったけれどそれだけではなかった。その他に、洋服や下着

絵本や文房具などもあった。必需品から遊び道具までたったの三十人弱で何十種類もの物が集められたのだった。

二週間後、先生がその施設の方が先生へ訪ねてきたと言った。その人は涙を流しながら、子供達がどんなによろこんでいたかと話し、何度も「ありがとう。」と言ったそう。その話を聞いた時に私はボランティアはすてきなことだなと思つた。一人一人、少しだけでも努力すれば、こんなに人を幸せにすることができるのだから。

## ボランティアをしてみて

小平市立小平第二中学校 三年 村越 彩香

私が中2の時、学校でゴミ拾いのボランティアをしました。場所は自分の家の周りでした。

ゴミは数えきれないほどたくさんあり、拾うのと燃えるゴミと燃えないゴミを区別するのがとても大変でした。公園には、カンやタバコのゴミ、お菓子のゴミがたくさんありました。道には、スーパーの袋、カン、おもちゃの破片など、ところどころに落ちていました。

捨てるのはとても簡単な事だけど、拾うのは捨てるよりも何十倍も大変だと、あらためて知りました。自分もポイ捨てした筈があるけど、そのゴミ拾いをして大変だとわかった時から、ポイ捨てをしなくなりました。

最初は、全然やる気もなく、めんどくさがつて「ゴミ拾いなんてやらなくていいじゃん」って思つてたくらい、やる気なんてしなかったのに、何で「拾う大変さ」がわかり、今ではポイ捨てをしなくなったのさ。

と今では思いません。

ゴミ拾いは「拾う大変さ」も「拾った後の気持ち良さ」もわかる、とてもいい事だと知りました。ゴミ拾いをして良かったです。ってかボランティアをして良かった。って感じですよ。次は他のボランティアをやってみたいです。

## ボランティアについて

小平市立小平第三中学校 二年 但野 由紀子

私は、今まであまりボランティア活動に参加したことが、ありません。ボランティアがどういうことかも良く分かりません。

しかし、今年国語の授業で学んだ、「マドゥーの地で」

を読んで少しだけボランティアを知ることができました。その説明文には、国境なき医師団のことが書かれています。

国境なき医師団とは、世界八十か国以上の国々から二千人を超す医療スタッフがボランティアとして登録され、その活動はパリ本部を拠点に、要請があれば世界のどこへでも迅速に医師を派遣し、医療に必要な物資をとどける、「世界の救急車」としての役割を果たしているものです。

私はこの活動を学んで、

「すごいなあ。私も人のために何かしていきたい。」と思いました。

今までは、ボランティアについて、何にももらえないし、めんどくさいなあと思っていたけど、人のために何か少しでも手伝うことってすばらしいことなんだと思うようになりました。

大きな活動ではなくても、身の回りでのボランティアから、はじめていきたいと思えます。

例えば、道で空きカンなどが落ちていたら拾ってしっかりとゴミ箱にすてたり、困っている人を助けていこうと思います。

ボランティアをおしてこれからたくさんを学んでいきたいと思えました。

## ボランティア

小平市立小平第三中学校 二年 吉瀬 智宏

僕が、ボランティアに出会ったのは中学に入ってからでした。初めて体験したボランティアは募金活動でした。みんながみんなできることではないのでとてもうれしかったです。募金は精一杯頑張ったのがみんなに伝わり沢山集まりました。初めてボランティアをやったの感想は、ボランティアがこんなに楽しいなんて思いませんでした。僕でもできるボランティアがあればもっともつとやりたいと思いました。ボランティアをやったことのない人の中には「ボランティアなんてつまらない。」と知っている人がいると思います。そんな人も一度でいいからやってみるともつとやりたいと思うはずですよ。ですから日本の人々が、もつとボランティア活動に興味をもてば世界のこままっている人々をもつと救うことができると思います。それにいい勉強にもなるしボランティアのすごさがわかっていただけだと思います。そこで提案があります。子供たちはボランティアがやりたくても、やるチャンスがないと思います。そこで授業に入れる。つまり授業の中でみんながボランティア体験をでき

るようになればよいと思います。そうすればみんながボランティアのすばらしさをわかることができると思います。

## 自分にとってのボランティアとは？

小平市立小平第三中学校 三年 植原 大樹

この前、募金活動をしてみて、このお金がしっかり届いて、届いた人達が喜ぶ顔を見て見たいなあと思つた。こつこつと募金活動をするのも、ボランティア活動だと思つた。お金を寄付することも、一種のボランティア活動だと思つた。つまり、ボランティア・ボランティア活動といつても、一口では語れないと思つた。

さて、ボランティアというのは、どうゆう意味か、わからなかつたので調べてみた。こつ書かれていた。「社会事業のために、自主的に、労力や技術を無料で提供する人。」さらに、ボランティアというのは、外来語だと思ひ、英語でも意味も調べた。「有志、ボランティア、志願兵。」この二つを会わせると、自主的に、無料で何かをする。逆に見れば、有志を集める。という事になるかな。前で書いたように、募金で例にとつてみようと思つた。募金活動するということは、自分には、利益にならない。労力を提供する。など多くにあてはまるといえるだろう。よつて、ボランティアとしてあてはまるだろう。と、辞書にこつこつと書いてあつた。しかし、その物事を救う・助けるなど、自分がどれだけボランティアという事に意識をもつて接するというのが大事だと思つた。

さて、募金活動もさておき、ほかにも、地域の清掃もやつた。が、あまりにも人の数が少ないということ。募金活動の時も少なかつた。これ

は、どうゆう事だろう。逆からとれば、ボランティアに対する関心が低いという事になる。確かに、ボランティアというのは、人助けだ。みんな、自分の利益にならないや無駄な時間や労力など理由は人それぞれだと思つた。自分だつて、イヤイヤやらされても、つまらないだけ。つまり、これは、意味のあるところでも書いたように、自主的にという事だと思つた。自主的さが、日本国民・世界の人々に伝われば、ボランティアというものが少しずつ無くなつていくような気がする。

したがつて、ボランティアというのは、一人一人、お互いに、助け合ひの精神というのを自主的にしつかり活動するということだと思つた。ボランティアは、やつてみて、はじめて、その大切さがよくわかる大事な仕事なので、これからも、少しでも協力をしてボランティアというものをまた見つめなおして見たいと思つた。

## ボランティアの力

小平市立小平第三中学校 三年 加藤 やよい

ボランティア、それは社会福祉事業などの様々なものに自発的かつ有志で無料奉仕活動をする事。一見、ボランティアは協力を受けている人だけが助けられていて幸福だと思ひがちです。それももちろんですが、奉仕活動を生きがいに行っている人もいますし奉仕活動してみると、必ず何か得られるものや大切なことを学ぶ事ができるので、実際に私もその中の一人です。私は小さい頃から踊る事が好きで、バレエをやつていました。そんな小学校のある日、東村山の福祉施設でボランティアとしてダンスを踊る事になりました。踊る事が大好きな私は舞台上に立つて

踊れる事をとて嬉しく思いました。何よりも発表会などの公演舞台ではないので自分達の保護者やバレエ関係の人だけでなく、誰にでも見てもらえる事に嬉しく思いました。そして、自分達の踊りを見てもらい、元気づけられたり、満足してもらえたらいいなと思いました。本番、私は自分の今持っている力を精一杯出しきって踊りました。舞台が終わった後、踊りを見てくださったお年寄りの方とお話をしました。初めてバレエを見て若い子供達の踊りは素晴らしく、元気づけられたと言ってくれました。それまで私にとってボランティアというのはとても大変な事で自分にはできないと思っていました。けれどもこの日初めて、自分もちょっとした身近な事で役に立てているんだなと思い、これからももっと自分ができるボランティアをしていきたいと思えました。やはり奉仕活動をした人も、進歩しているのです。私はこの日ボランティアを通して学んだ、小さな事でも役に立てるといふ事と、ボランティアは相手も自分にも喜びを与えられるという事、そして一まわり成長した踊りが大好きな自分を、これからの生活で生かしていけたらいいと思っております。

## 車いすをおしてみて

小平市立小平第三中学校 三年 久保山 佑香

私は夏休みに、車いすの妹と歩いて図書館へ行ってきました。家から喜平図書館までは、歩いて片道一五分ぐらいで行けます。ですが、電柱があつて道が狭くなっている所はスムーズに通れません。傾いている所はなんとか通れるけど、車いすが傾いて車いすに座っている妹の重心も

傾いてしまうので支えるのがとても大変でした。また、道を渡る時にある数ミリメートルの段差につつかかかってしまい、妹が前におおれそうになる時もありました。

私の場合、車いすにのっているのが妹だったので傾いても支えることができませんでした。もし、車いすにのっていたのが大人だったら私は支えることができなかったと思います。つまり車いすをおすということは、一見簡単に見えてとても難しい作業なのです。

特に難しいのは道を渡る時の数ミリメートルの段差です。道を渡っている時に、次の道の段差で一番低いところを目で探して次の道へと渡ります。しかし、低い所を探しても段差が大きく、普通には渡れない道が沢山あります。その時は後輪を支点にし、車いすが浮くように体重をかけて段差を上がるのが一番良い方法だと思えます。逆に、いきおいをつけて段差をのぼろうとするとあぶなく、車いすにのっている人にこわい思いをさせてしまいます。

車いすにのっている人の気持ちを一番に考えて車いすをおすのは難しいことです。今回は車いすにのっていたのが妹だったから「ボランティア」という言葉にあわなないかもしれないけど、この経験を生かしてお年寄りや車いすの人のお手伝いできれば良いと思えました。

## 消えてほしい活動

小平市立小平第三中学校 三年 小金井 正也

ボランティア活動の中には、とても素晴らしいものがあると思います。例えば募金活動、これはとても人の役に立っていて、とてもいいシステ

ムだと思えます。しかし、少し考えてみると、変なボランティア活動があるということにも気づきます、ゴミを拾う活動です。そのゴミを捨てているのは人間です。そして拾う活動をしているのも人間です。人間という広い範囲で考えるとあたりまえのことかもしれません。しかし、個人個人という狭い範囲で考えると、どうしてもいい活動だとは思えないのです。

ゴミをポイ捨てる人、ポイ捨てる人の八割以上の人は、注意をされても平気な顔をしてゴミを投げ捨て続けるでしょう。ゴミを拾うボランティアの人、拾う人はどんどん拾っていくでしょう。拾っても、また捨てる人がいる、そんな悲しいイタチゴッコを続けながらも、ボランティアの人たちはがんばってゴミを拾っています。ときには笑顔で・・・。

一人の人間がゴミを捨てる。そのゴミを一人の人間が拾う。また同じ人がゴミを捨てる、そしてまた、同じ人がそのゴミを拾う、これではまるで召使いかなにかです。

ゴミ拾いなんていう活動は、他の活動とはちがう、「二人一人が何もしなければやらなくてすむ活動」です。なのに人々のポイ捨てはまったく終わりがきません。罰金にでもした方が・・・と思ってしまうほどです。他にも方法は色々あります。一ヶ月に一回、ゴミ拾いの日をもうけ、人民の義務にさせるのも効果的だと思います。しかし、これでは強制的なことになってしまいます。今自分達にできることは何でしょう。それは一人一人が声をかけることだと思います。仲のいい友達がポイとゴミを捨てたら、ジョークまじりでも、ポイ捨てはダメだということを言っていく、それで自分の前では友達にポイ捨てをほとんどしなくなったら、すごい進歩です。たとえその人が他の場所ではポイ捨てをしていますが、ポイ捨てを少しは悪いことだと思っているといます。

今の自分達にはこんな地道なことしかできません。何十年、何百年後もボランティアの活動というものは存在し続けるでしょう。その活動の中に、ゴミ拾いがなくなり、美しい地球になっていることを願います。

## ボランティアをやってみて

小平市立小平第三中学校 三年 小林 由季

私は、2年生のなかばぐらいからボランティア活動を始めました。最初は、三中の代表と聞き、ちよつとドキドキしました。初めて公民館に行つて運営委員会にできました。話の内容は理解できましたが、いろんな小学校のPTAの方々が出席されていたのです。すごい委員会だと思いました。だんだん手伝いにもなれてゆきました。

こうしてどんどん月日が流れていきました。実際に活動してる時は小さい子と遊んだり、色々な準備をしますが、やっぱり小さな子供が遊んでいて喜ぶ姿を見るとこつちもうれしくなりました。ボランティアをやつてみてなんだか少しだけ自分が変わったような気がしました。貴重な経験になりました。

## 「ボランティアをしてみよう」

小平市立小平第三中学校 三年 五嶋 豪志

僕がボランティア活動を初めて体験したのは中学校の二年生のときだった。そのとき通行人にどのように自分の気持ちを伝えればいいか分

らなかった。そして、僕らの気持ちを相手が受けてくれるかどうか。でもこんなことを考えている場合ではない。そう言えば先生がこんなことをおっしゃっていた。

「ボランティア活動の募金活動をするときは相手に自分の一生懸命さを表に出せばよい。」そしてこのことを肝に銘じながら募金活動を行った。しかしなかなか入れてくれる人はいなかった。

「何でだろう。」

とふと思ったとき、

「みんなもつと声をだそうぜ。」

と仲間の一人が言う。グサツと僕の心の中に刺さった。そうだ声が必要なんだ、と心の中でささやいた。

それから間もなく大きな声で相手の耳に届くよう一生懸命出した。

「募金をよろしくお願いします。」

と車の音に負けないくらい、そしてのがが痛くなるまで言い続けた。すると何人かの人々がお金を入れてくれた。

「ありがとうございます。」

としつかり礼を言った。そしてある人が、

「募金活動を頑張ってくださいね。」

と励まして下さった。このうれしさは一生心に残ると思う。もちろん今も心にグツと響いている。

今後になっても学校の生徒会などを通して幅広く活動をしている。いくつ年をとってもこのボランティア活動を大切に、積極的に参加したい。

## バリアフリー

小平市立小平第三中学校 三年 立迫 美菜

私とバリアフリーとの関係は今年で約六年目になります。最初は、小学校四年生の時に行った「小平第一小学校若草学級との交流会」で、実行委員を務めたことです。初めの頃は、「障害者の人は大変で、かわいそうだから、少しでも助きたい。」

という考え方でした。そんな私の考えを変えてくれたのは、交流先の友達でした。何事にも一生懸命に取り組むのを見ていたら、何か私に足りないものが分かってきました。それは「心の純粋さ」です。人の事を疑わずに、一つのものをやりとげる力には驚きました。助ける事が目的であつたのに、反対に私が大きなものを与えられてしまいました。

五年生の時に「五体不満足」を読んで、時間をかけ、周りの人の思いやりによつて「できない事がなくなる」ということが分かりました。計算のできない人が毎日の努力によつて克服するのと同じことなのです。誰でも、努力を続ければ苦手は克服できるのです。問題は「長い時間かかっても絶対に克服する」という気持ちを、どこまで強く持てるか、ということです。

私は、小学校の間の経験によつて「助けるのではなく助け合う」と気付くのが早かったのですが、そのような経験をしないまま大人になった人達は、変に障害者を意識します。私は、大人になってからよりも、子供のうちにそういう体験をした方が、当たり前のように心に定着していくと思います。だからこそ、私たちは「自分のため」にボランティアを積極的に行うことが大切だと思います。

## 募金活動をしてみても

小平市立小平第三中学校 三年 對馬 翔

去年の十月二十日に、今の三年生全員で、「赤い羽根募金」をしました。小平駅、花小金井駅、武蔵小金井駅にクラスの班に分かれました。全部の班に募金箱と赤い羽根が渡されました。僕の班は武蔵小金井駅の南口担当で、北口よりも人が少なかったので、募金をしてくれるかどうか心配でした。

「赤い羽根募金にご協力お願いします。」

何度も声をかけても、初めのうちはほとんど人が通り過ぎていきました。募金活動をするのは大変だなあ、と思いました。ずっと活動をしていると、だんだん募金してくれる人が増えてきました。それに募金してくれる人の中で、声をかけてくれる人もいました。

「がんばってね！」

たった一言だけど、すごく嬉しかったです。もつとがんばらなきゃ!と思いました。なので声も段々大きくなってきたし、気持ちも入ってきました。募金をしてもらったら、元気にあいさつができるようになりました。

「ありがとうございます!!」

この「赤い羽根募金」をして、少し自分が成長できたと思いました。また募金活動してみたいと思いました。

## ボランティアをして

小平市立小平第三中学校 三年 出口 将志

生徒会役員が、近隣の小学生達と共に、募金活動を行うことになり、それには役員の一人的僕も参加しました。活動時間は短いものですが、皆で頑張って呼びかけをしたので、沢山の人が募金してもらい、沢山のお金を集められました。喉が枯れてしまつて疲れたけれど、その分達成感があったことを覚えています。人の役に立つことをするのは気分が良いものだと感じました。

この活動を終えて、僕は以前よりもボランティアに興味を持つようになり、それと共にボランティア活動がさらに広域の人々にまで広がつていつてほしいという考えが強くなりました。

活動の前のことなのですが、折角このような機会に巡りあつたのだから、助けが必要な世界の人々のことを知つておこうと調べてみたことがあります。すると、不衛生な環境や、害虫などから起こる様々な病気や、毎年多くの人々が苦しんでいることがわかりました。それらは日本ならば予防接種を受けることや、ごく普通に生活していれば防げるものばかりでした。だから僕は、少しでも恵まれている僕達が、彼らになるべく不自由な生活をしないでいように支援するべきだと思つたのです。

そのような考えを持つてはいるのですが、今の僕には学校生活があり、ボランティアの機会は限られたものになつてしまつています。

しかし、それでも出来る限りのことをするように努めて、どのような小さなことでも、貢献していきたいと、僕は思っています。

## ボランティアとは

小平市立小平第三中学校 三年 中島 直美

私は小学校のとき老人ホームへ行きました。少し話してみようと思  
い、一人のおばあさんに近づいてみました。何を話そうかと困っていた  
らそのおばあさんは急に私の手を両手で握りました。私がびっくりして  
いると、おばあさんは小さな声で「はなさない」と言いました。笑顔で  
した。なぜかわからないけど涙が出そうでした。どうしていいかわから  
なくて、そのまま手を握っていました。

帰る時間になってエレベーターに乗るとき、暗証番号をおすようにな  
っていました。老人ホームの人達が外へ勝手に出ないためです。下へ降  
りてバスに乗ったとき、おばあさんが一人ついてきてしまいました。老  
人ホームで働いている人がついていたので平気だったけれど、とても寂  
しそうな顔でした。だからおもしろい手振りしました。手を振り返して  
くれました。私は老人ホームへ行ってお世話をしたわけでもないし何か  
プレゼントをあげたわけでもないけれど、私に会っただけで笑顔になっ  
てくれた人がいて、逆に元気をもらえました。ボランティアってそうい  
うものなんだな、と思いました。

## 私の身近なボランティア

小平市立小平第三中学校 三年 矢部 真莉

〃 社会事業のために無料奉仕をする人〃これは、辞典で調べたボラン

ティアのことです。私はこれを見て、地域の清掃活動もその一つだとい  
うことをはじめて知りました。今まで地域の清掃活動は、ボランティア  
ではなく交流の一つだと思っていたからです。小学生の頃、2・3度清  
掃活動をしたことがあります。学校の地区の決められた道路を練り歩  
くようにしてゴミを拾っていきました。その時の私は、今までしたこと  
ない体験をしたことで、ただ楽しんでいました。今は中学3年生なので  
すが2年生の時、学校で行なっている「さわやかコミニティー」の一環  
で駅の近くをクラスの班ごとにゴミ拾いをするようになりました。小  
さい範囲なのに集まったゴミは予想以上で、コンビニのお弁当からジュ  
ースのカンなど普段私達も良く食べたり飲んだりするものばかりでした。  
その時はじめて知ったことではないけどさすがに遺憾に思いました。

その他のボランティアといえは募金の呼びかけをしました。今までは  
遠くから見ただけだったこともやってみると大変でいつも街頭で呼びか  
けをしているボランティアの方々の必死さを少しだけ分かったような  
気がしました。その大変さの一つといえは、いつでも気を抜かず笑顔を  
保つことです。「募金お願いします」などの言葉は怒鳴っても募金をして  
くれる人はいません。いつも笑顔というのはボランティアの鉄則のよう  
に思いました。

私達が少しでも想いやりを持てば道にゴミが落ちることもなく、呼び  
かけて人を集め清掃をする必要もなくなります。そして募金をすること  
によって世界に恵みをもたせることもできます。全てはボランティアの  
大切さが分かる私達でこそ、できるものです。今回の作文を書くことで、  
改めてその大切さに気がつきました。自分ができるボランティアに、こ  
れからも挑戦し続けていきたいです。

## ボランティア活動

小平市立小平第三中学校 三年 竹浪 一樹

「ボランティア」とは何だろうか？小学四年生の時に興味をもち出しました。それと同時に自分の小学校でも活動を開始しました。そのボランティアは、「お年寄り」についてでした。年々増加しつづけるお年寄り、それが高齢化です。それについて僕らは勉強しました。最初は、なぜボランティアをしなくちゃダメなのか？と疑問に思っていました。しかし、勉強して、ボランティアというのがどんなことか分かってきた時、初めて、

「ボランティアっていいな！」

と強く感じました。そして僕の強い意思と同時に、小学校も動き出しました。要するにボランティア活動の開始です。生まれて初めてのボランティア体験。僕の気持ちは2つの思いがありました。ワクワク、そしてドキドキ。そんな思いを胸にきざみ初めてのボランティアを始めることになりました。体験場所は、小学校から歩いて十分ぐらいの場所にある「健成苑」という所でした。ここは僕の家から近く、いつも通っていた所でした。まさかここだなんて思いませんでした。学年で行ったため、六〇人ぐらいで訪れることになりました。ここにはお年寄りがたくさんいて二階は体があまり動かなくなっていました。三階は、体は動くお年寄りだけど、元気がないお年寄り。というぐあいに分かれていました。六〇人もいるため、三〇人が二階、もう三〇人が三階というふうに、半分に分かれることになりました。僕は三階の方の担当になりました。手品や、手語、おり紙をしたりなどいろいろやりました。お年寄

りはとても喜んでくれました。

「喜んでもらえてうれしい！」

と心から思うことができました。体が動かなくなったお年寄りがたくさんいて、健成苑で働いている人は大変だなと思いました。しかし、僕らにもこのようなボランティアができるんだと思いました。この様な体験をしてみて、僕らの周りにもさまざまなボランティア活動があることを知りました。どんなことでもいいのです。例えば、最近では、ゴミ置き場にある生ゴミがカラスのせいでよくあざついている光景をよく見かけます。それを片づけるのだったって町のボランティアにつながることになりました。僕の家はゴミ置き場の前なので生ゴミの時はいつもグチャグチャになっている状態です。僕もたまに手伝いますが、とても大変な作業です。他にもいろいろあります。僕は募金活動もしたことがあります。駅で呼びかけをし、募金してもらったのです。

「ボランティアって大変だなあ・・・」

と汗をたくさんかきながら思うこともありましたが、でも、大変だけど、とても意味があるものだと思えることができました。これは自分でボランティアについての一歩前進したと思います。マイケル・ジャクソンも、「世界平和」のために、ケガをした子供たちのために歌を作り、それをきかすということをしてることを聞いた時、とてもいいなあと思うことができました。僕も将来、大人になったら、日本は安全に暮らせると誰も思うぐらいの日本を作っていく努力を一步一步、一人の人間として歩いていきたいと思えます。

## ボランティアの大切さ

小平市立小平第三中学校 三年 金平 綾

みなさんはボランティアをしたことがありますか。ボランティアというとか特別で難しいことのような気がするかもしれませんが、でも実際にはそんなに難しくも特別なことでもないと思って実感しました。そればかりかボランティアって楽しいことなんです。

私は中二の秋くらいから公民館が毎週土曜日、小学生を対象に遊び場を開放している「友・遊」の運営委員をしています。主な活動は、一ヶ月に一度の運営委員会で、どんな遊びをしたら子供達が楽しんでくれるか企画を話しあうことです。小さい頃遊んでおもしろかった工作を提案したりしました。

委員会のない土曜日も行ける日は行っていました。そういう日の仕事は遊びにくる子供達の受け付けとか一緒にけん玉やお手玉で遊んだりしました。子供達は単純なためってシンプルな遊び道具で喜んでくれるので、とてもやりやすかったです。またよく来てくれる子とは顔見知りになって仲良くなれました。よく来てくれる子の中にまだ小学校には行ってないくらいの小さな男の子がいました。人形を持ってきていろいろ話しかけてくれるのですが、何と言っているのか全然わかりません。よく聞くと日本語ではないようです。彼は中国人だったのです。言葉はわからなかったけれど紙ヒコキを飛ばしたりして遊びました。その子が帰る時に「再見」と言ったら笑って手をふってくれました。少し国際交流をした気分になりました。

こんな風にボランティアをするのはいい経験になると思うし、新しい

発見もあります。また、自分を見つめ直すきっかけになるかもしれません。私はボランティア活動をする時は、それをたくさん楽しむことが大切だと思います。興味のある事を楽しんでやればきっと自分のプラスになります。だから、私達はいろんな事にトライしてみるべきです。

## 体の不自由な人にできること

小平市立小平第四中学校 一年 浅野 玉美

私が、「ボランティア」と聞いて考えるのは、たくさんの方が協力して、人を助ける、ということなんです。

小学校の頃、先生方や市民の方が、私たちにボランティア活動について、積極的に教えて下さいました。例えば、手話だったり、車椅子体験を企画してくださったりしました。

でも、私はボランティアについて、深く考えたり、ボランティア活動に参加したりすることはありませんでした。小学校でボランティア活動をしてくださった方々が沢山いたのに、手話の話の時も、車椅子体験も、体の不自由な人のことなんか考えずに、ただ授業をだらだらやっただけでした。

今思うと、もっと真剣に取り組めば良かったのにと後悔します。

そう思うようになった理由は、駅で目の不自由な方を見た時でした。その人は、目の不自由な人が使う杖で、点字ブロックと杖を頼りに歩いています。私は何か手伝えることはないかと、小学校の時、総合の時間に、みんなで福祉について発表した時のことを思い出そうとしても、思い出せませんでした。結局、その目の不自由な方が大変そうに歩くの

を見ていただけでした。

私はその人の手助けをすることの、ボランティアはできませんでした。私がボランティアについて、もっと真剣に考えていれば、目の不自由な方の大変さを減らせたのに、と思います。

なので、夏休みの作文には「ボランティア」を選びました。

最初にも書いたように、ボランティアは、たくさんの人が協力して、人を助ける。ということ、一人でも多くの人がボランティア活動に協力して、一人でも多くの体の不自由な人を助ける、ということだと私は思います。

まずは、ボランティアをやってみようとするのが、ボランティア活動の一番初めで、その後少しずつ活動に参加して、自分が助けてあげられた人が感謝してくれる、そこからボランティアの本当の大切さが分かるんじゃないかと思いました。

私はまだまだ、「ボランティア活動に参加してみよう。」と考えている所ですが、次の「少しずつ参加する。」に、あてはまる人になりたいです。

## ボランティアって何だろう？

小平市立小平第四中学校 一年 天坂 華織

「ボランティアって何だろう？」 私はそう思っていました。みんな簡単にボランティアと言うけど、私はボランティアが何だか全くわかりませんでした。

ボランティアとはなんなのか、そして、何のために何をしているのか、それを調べてみました。

ボランティアとは自分から進んで社会事業などに奉仕することだそうです。

そしてそれらは何をしているのか調べてみると、一口でボランティアといってもたくさんあり、そのなかで緑のボランティアというのに興味を持ちました。緑のボランティアとは森林保護みたいなもので、森を守るボランティアで、主に植樹、下刈、枝打ちなどをしているそうです。

ボランティアは様々なものの収集や自然保護、リサイクルと高齢者と障害者の自立支援、子どもとの関わり、募金協力、災害のあとの支援、国際交流・協力そして、文化伝えます。

私はボランティアをしたことはないけど、やれる機会があったら、やってみたいです。

## ボランティアってなんだろう

小平市立小平第四中学校 一年 飯田 開

僕は、ボランティアをあまりした事がない。というよりも、ボランティアを求める、いろいろな障害を持つ人々が近くにいないし、どういう事をしていいか実際分からないのがやれない理由です。

小学校の授業でボランティアに関する、授業を何回かやりました。その時は、「ふーんそうなんだ今度からこまっている人がいたら助けてあげよう。」と思いました。でも、たとえば白い杖をもって歩いている人がいたら声をかけられるか。と思うと声をかけられないような気がします。それは、その人に何をすればわからないのが大きな理由です。だから、そういう方たちには、どうしてあげたらいいか僕なりに考えています。

数日前、お父さんが駅の坂をとてもがんばって登っている車椅子の人を見かけたそうです。あんまり大変そうなので、お父さんは後ろからゆつくり押してあげたそうです。でもその車椅子の人が

「ありがとうございます。けれどお気持ちだけで十分です」  
お父さんが不思議に理由を聞く

「加減を知らない人がやると速すぎてこわい。」といっていたそうです。僕は、この話を聞いてボランテИАってやれば何でもよろこばれるものじゃあないんだなあと思いました。

僕は、数少ないボランテИАをもとめている人を見つけたら「何かお手伝いする事ありませんか？」とがんばって声をかけてみようと思いました。

## やってみたいボランテИА

小平市立小平第四中学校 一年 井瀬 利沙

私は、ボランテИАということをやったことがありません。なのでこれならできそうだな、これをやってみたいということがたくさんあります。

体の不自由な方の車いすをおしてあげたいです。体の不自由な方はあまり外出できないと思うのでおしてあげると喜ばれると思うからです。一緒にお話しをしたり聞いたたりするのもボランテИАの一つだと思います。他には入院されている人の所へ行って笑わせてあげるのも一つかなと思います。だって楽しい気分になったら少しは気が晴れて良いと思うからです。マンションの下などの花壇によく歩いてる人が捨ててある

ことがあります。そうゆうごみを拾って集めて捨てればキレイになってみんなに喜ばれると思います。施設のベッドのシーツやカバー洗った後、たたむボランテИАもあるそうです。たけのことという団体は、ボランテИАをさせてくれるそうです。知的障害の方とプールに入って一緒に泳ぐことなど、させてくれるそうです。

私、ボランテИАのことについて書いてみて私たちの身の周りにはたくさんボランテИАがあるんだなと感じました。ボランテИАって大変なことだけど、だれにでもチャレンジできるといことが分かりました。私はまず自分にできそうだと思うものから始めていきたいなと感じました。

## ボランテИАについて

小平市立小平第四中学校 一年 磯野 直人

ぼくは、6年生の時にボランテИАの勉強を少しだけやったのでちょっとはボランテИАの事を知っているつもりです。けど中学になってもうちよつとくわしく調べてみたら、知らない事があつて驚きました。

ボランテИАとは、障害者の人のお手伝いをしてる人です。ボランテИАをするのはとても大変な事だと思います。なので僕達ではちょっと難しいのでやつぱり、募金などが良いと思います。僕は、この前、学校で、募金をあんまり出来なかつたので、今度は、募金したいです。

僕は、障害者の人に会つたことがあります。その時もやつぱり、ボランテИАの人は、いました。ボランテИАは本当に大変だけど、その時のボランテИАをしている人は、大変そうな顔はしていませんでした。

こんな所を見てボランティアをしている人は、すごいなあと思いました。障害者には、ボランティア以外にも、バリアフリーなどがあります。バリアフリーは障害者に本当に便利です。今は、点字などもあつて障害者の方も住みやすくなっています。日本がもっと障害者の人に住みやすい国になると良いと思います。

## ボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 馬田 朋輝

ぼくはボランティアをやったことがないから、大変さなどは分からないけれどホームレスの人達への援助をもっとしなさいといけません。思う。

ホームレスの人達は、家が無い汚いなどの理由でまわりから差別を受けていると思う。最近、ホームレスの人を集団でなぐつて、殺したという事件なども起きている。

こういう風な差別を受けないためにも、ホームレスの人たちに食事を配給したり、ホームレスの人達が住める家を建てたりして、助けてあげないといけないと思う。

日本の経済は発展しているけど福祉などはあまり発展してないと思う。これからはもっと福祉などに力を入れて、いかにいいいなと思う。

これからはホームレスの人が一人でも少なくなればいいなと思う。

## やってみたいボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 上園 徹

身近なボランティアというと学校でも呼びかけている募金や空き缶拾いなどの自分で進んでやってみるボランティアなどがある。僕がやったボランティアは、ほとんどの人がやったと思うがやっぱり募金です。

募金はホントすごいです。世界の3分の2ぐらいの人が一円でも募金に協力してくれたらその人口からいってすごい大金になる。こんな身近なことだからのに・・・やはり募金活動は世界の人が協力し合つてこそものだ。

ボランティアとは一人の小さな一歩から大きな一歩へと変わっていくのだと思う。そして世界に大きな輪ができるのだ。

## ボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 大賀 玄己

ボランティアは身近かな所でも、いろいろできます。

例えば、目や耳が不自由な人達に手をかしてあげるや、お年寄りに親切に声をかけてあげるなどいろいろあります。

しかし、日本はまた世界の中では、ボランティアをよくするほうだと思えます。

世界には、とても貧しい国があります。

日本はそれらの国と比べたらとてもとても幸せです。

ノートがあつて、筆記用具があつて学校へかよつてゐる。

だが、貧しい国はノートがない、筆記用具もない、当然学校もない国が少なくとも言えないのです。

このような国に百円をあたるだけでノートが一冊買えるようになるのです。

今では、コンビニなどいろんな所で募金の箱が置いてあります。

身近かな所で、少しお金を分けるだけで、多くの人々の命が助かったり、勉強したいと思つている子供たちに道具を贈ることが出来ます。

今からやつていけば、近いうちに不公平のなくなる世界がくるかも知れません。

そうするには、日本だけでなく、世界の人々といっしょに不公平を無くす手助けができれば、戦争やテロなどいっしょになくなくなると思ひました。

## ボランテア

小平市立小平第四中学校 一年 大澤 彩乃

ボランテアはたくさんあります。例えば地域清掃やぼ金をするなど他にもまだまだあります。

私はボランテアをやったことが一度もありません。でも、ボランテアをすることはとっても大切なことだと思います。なぜかというところボランテアは困っている人を助けるためにあります。お金に困っている国があつたらば金をしてその困っている国に集めたお金を送つてあげるだけでもボランテアになります。だから、ボランテアは大切だと思

います。

私のやつてみたいボランテアは、いろいろあるけどその中でもやつてみたいボランテアは地域清掃です。ゴミをひろつたりして、つかれそうだけどやつてみたいなあと思ひました。地域清掃をすれば少しはきれいな小平市になると思ひます。だから、私は地域清掃をやつてみたいと思ひました。でも、けっこう大変そうだと思ひます。たくさんごみがあつたらその分つかれるので大変だと思ひます。でも、やる時はしつかりやりたいです。後、ぼ金なら私にもできるのでぼ金もしたいと思ひます。使いきつたテレホンカードなどでもいいので、簡単にだれにでもできるボランテアなのでぜひ協力したいと思ひます。

## ボランテアについて

小平市立小平第四中学校 一年 大野 由樹子

私が初めてやつたボランテアは、小学四年生のときにやつた四小図書室の蔵書点検です。学校から「ボランテアのお願ひ」のお便りがあり、申し込んでみました。本棚から本を全部出して、数えたり、古くてカビが生えているような本を処分するためにたばねたり、本を分野別に分けたりしました。作業の流れがよく分からないし、本は重いし、手はほこりでまっ黒になるし、大変でした。でも、友達のお母さんの図書カードが出てきた時はびっくりしたし、ちよつと笑つてしまいました。作業中、何度も校長先生が声をかけてくれたこともうれしかったです。

ボランテアという言葉を知ると、すごくカッコイイ響きがするけれど、気軽に「ちよつとお手伝ひ」という感じで、できるものもあるんだ、

と思いました。

私の所属している部に、中国から来た先輩がいます。中国語はもちろんですが、英語も話せます。しかし、日本語は片言でしか話せません。私は先輩と色々話をしたのですが、中国語も英語もできないので残念です。先輩は、日本語での授業についていくのはとても大変のようです。英語を話せるのに、日本語を英訳したり、英語を和訳しなければならぬので、私達の何倍もの勉強をしなければなりません。部活の練習の合間に、教科書や参考書に目を通していきます。分からないことがあったら私達に聞いてきます。そういう時、私は、分かる範囲で答えているけれど、

(私なんかを教えてしまつて大丈夫かな？誰か中国語のできる人が先輩をたすけてくれたらいいのになあ。)  
と、思いました。

先輩だけでなく、私達の身のまわりには、こんな風に苦勞している人達がたくさんいます。その人達のお手伝いができたらいいなあ、と思いました。

## ボランティアとは？

小平市立小平第四中学校 一年 沖 啄臣

ぼくは、ボランティアと聞いたとき、何が楽しくてやっているのか分かりませんでした。そこで、ボランティアとはなにか？ということを考えてみました。するとぼくは、人に「ありがとう。」など「助かった。」などを言われるのがうれしくて、やっているんだと思いました。ぼくも、

小学校の時、お仕事体験でボランティアのようなことをやりました。その時、そのお店の人に「ありがとう。」と言われた時、うれしかったので、またやりたいな～と思うことががあるので、今、ボランティアしている人も同じだと思つてやっているとします。ぼくは、ボランティアを通じて、いろいろな人と仲よくできたらいいと思いました。

## やってみたいボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 奥山 優香

私がやってみたいボランティアは、老人ホームなどの施設に行つて施設にいる人たちとお話をしたりして遊んだり、外に出て、一緒に散歩にいったりしたりしたいです。私は、習い事でバレエとピアノをやっているので、施設の人に見てもらつたりしたいです。あと、もう少し大きくなつたら、福祉関係のボランティアならなんでも挑戦してみたいです。例えば、手足が不自由な人の看護をしたり、施設に入っている同じ年くらいの子供たちと遊んだりしたいです。あと、盲導犬になる仔犬を育てるパピーウオーカーもやってみたいと思つています。今は犬はかえないけど目の見えない人より、盲導犬のほうがはるかに少ないので仔犬を育てるパピーウオーカーがもっと増ればいいなと思つています。でも、やっぱり一番やりたいのは一番はじめに書いた、施設のことです。ボランティアをやり終わった後に、おじいちゃんやおばあちゃん、それからその施設の人たちが明るく元気になってくれたらなあと思います。私は将来看護や福祉・ボランティアの仕事につきたいです。

## ボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 菊池 将基

ぼくが、ボランティアと聞いて、最初に思いつくのはぼ金となぜか老人です。

そして、ぼ金と老人から思いうかぶボランティアは、ぼ金はそのまままぼ金で老人は、信号と一緒にわたつてあげたり、重そうな荷物をもつてあげたり、という事が思いうかびます。ちなみに僕は老人を助けたことが、ありません。なぜか、あまり困っているように思えないのもあるし、老人が一人でいるのもあまり見ないからです。たとえ見かけたとしても、声をかける勇気がなくて、そのまま見て見ぬふりをして、そこを通りすぎると思っています。でも、もしそんなことができたなら、たぶんボランティアにすぐくきようみがわくと思います。

## ボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 加藤 貴優

ぼくがこのボランティアについて書くこうと思った理由は、そういえばあまりボランティアをしたことはなかったのもっと調べてみたいと思つたからです。ぼくはボランティアは、老人や体の不自由な人をたすけることだと思っていました。辞典で調べてみると社会福祉などの活動に、無報酬で参加する人。と書かれていました。インターネットで調べてみるとたき出しなどがありました。阪神淡路大震災のときはたくさんの方

生が協力してくれたそうです。ボランティアは、ぼくが思っていた以上にたくさんありました。専門のボランティアというのもあり、医師たちからのボランティアなどでした。

ぼくは、このボランティアを調べて、ボランティアはとても大切なことだと思いました。やっぱり助け合っていくということは大切なことだと思いました。

## やってみたいボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 加藤 紗恵

私には、やってみたいボランティアがあります。それは、自分達で育てた花や苗木などを施設や希望する人に分けたり、施設や公園、道路沿いの緑の世話をする活動です。あと、身近なボランティアもやってみています。例えば、海や公園に落ちてるゴミ拾いや、使用済み切手やテレホンカード、ベルマークなどを集める収集活動、リサイクル活動、ユニセフ募金などスーパ―やコンビニ、学校などで行われているので協力したいと思います。

ゴミ拾いをすれば、自分もスッキリするしみんなもスッキリする。リサイクル活動をすれば無駄なゴミも減る。ユニセフ募金をすればアフガニスタンなどの子ども達を援助できるので、ボランティアに参加したい、と思いました。

簡単なボランティアなので皆さんで、参加してもらいたいと思います。

## 「ボランティア活動を考える」

小平市立小平第四中学校 一年 片岡 瞭

ボランティア活動に参加してみたい。そう思ったとき、「ボランティア」とはいったいなんだろうという素朴な疑問がいくつかわいてきた。ある本に国内には大小236ものボランティア団体があると紹介されていた。

「ユニセフ」のような世界的な組織から、近所のゴミ拾いのような身近なボランティア活動まで様々ある。

正直、規模が大きい方が「かっこいい」と感じてしまうが、中学生が初めから大きな活動に参加することは、難しい。まずは身近な社会活動に参加することでボランティアを体験し、こうした活動の中から「ボランティア精神」を理解していくことにしたい。

「ボランティア」とは自ら進んで困っている人や地域に役立つ行動をすることを指す。それに、一人一人の力でなく、団体や組織としての力を発揮していくことが大切だ。なぜなら、こうした活動を社会に広げていくことがもう一つの重要な役割だからだ。

ボランティア活動に参加しようと考えたとき、「ボランティアはお金もらって活動していいのかどうか」というもう一つの疑問が浮かんだ。「無償奉仕」に大きな意味があるのならば、お金をもらったの活動は「仕事」であり、「商売」ということになってしまう。例えば、ゴミ拾い活動でお弁当やジュースを出してもらったときはどうなるのか。資料を見ると、「ユニセフ」などの国際的な活動では交通費などがもらえる場合もあるようだ。本格的な活動をしようとするれば、大

きな費用が必要となるので、寄付などで資金を集めるのはやむを得ないことかもしれない。しかし、「対価として報酬を得ることはボランティアにふさわしくない」ということも書いてあった。難しい問題なので、いずれもう少し勉強してみたい。

ところで、ボランティア活動しようとする場合、一番重要なのは自分に関心のある「活動テーマ」と出会うことだと思う。

「ゴミ拾いなど面倒だ」とか、「お金をもらわないで働きたくない」という話も聞くが、中学生になったら「社会貢献」の意義をしっかりと考えるべきだと思う。リーダーや経験者などの意見をよく聞いてみることも重要だ。

自分も小学校のとき、「小平青少年隊」という活動に何度か参加したことがあった。みんなで「鬼ごっこ」をしたり、「花火」をしたりする集まりである。今でも楽しい思い出として記憶に残っている。

中学生になったのだから、今度はこうした活動で小学生の面倒をみてあげたいと思う。これが自分のできるボランティア活動の第一歩となるかもしれない。より多くの仲間ができることを楽しみにしている。

## ボランティアって何だろう？

小平市立小平第四中学校 一年 北川 俊介

ずっと前、僕はボランティアを「たんなるタダ働き」と、考えていました。

でも学校で習ったりテレビで見たりしてボランティアのことを知っていくにつれ、だんだんボランティアを「良い事」と思うようにな

りました。そして今では「人としてあたりまえの事」と思っているようになりしました。

実際僕は人に道を教えたり、自転車をおした人に自転車をたたせる手伝いをしたり、募金したりと、「ボランティア」と言いきっていいのかよく分からない、ささやかなことしかしてきませんでした。でもこうすることで困っている人が少しでも良い気持ちになれるならこんな小さなことも、りっぱなボランティアだと思います。

それに「ありがとう」と言われたとき、自分もうれしくなれるんだから自分のためにもボランティアは良い事だと思います。そして最終的には、「人のため」とか「自分のため」とか頭で考えるのではなく自然とできることが一番だと思います。

人に優しくすることを「はずかしい」と思ったりもするけど、自分のはずかしさをふりきって人に優しくできるなんて最高なことだと思っから、これからもささやかなボランティアをしていきたいと思っます。

## ボランティアって何だろう

小平市立小平第四中学校 一年 清水 優里菜

私の考えているボランティアという物は、困まっている人を助けてあげたり、少しの勇気を出す事だと思います。ボランティアの中には、しようがいを持つている方を手伝うなど大きなボランティアもたくさんあるだろうけど、ほんの少しの勇気を出すだけで簡単に出来るボランティアも、たくさんあると思います。簡単なボランティアの中に

は、ボランティアじゃなくてもっと小さい物もあると思います。簡単に出来るボランティアは、そのほんの少しの勇気をだせない人がたくさんいるからボランティアって何だろうって考えるのかもしれない。よく意味が分からなくなっちゃうけど簡単なボランティアで簡単じゃないボランティアかも知れない。もちろん、大きなボランティアはもっと簡単じゃなくて、大変かも知れない。本当にボランティアって何だろう？自分が人を助けようとしている時、自分も相手に助けられているのかもしれない。助けるんじゃなくて助け合っているのかもしれない。

## ボランティアについて

小平市立小平第四中学校 一年 鈴木 愛子

中学生になって、いろいろな活動が増え、今まで以上にボランティアをすることや、考える機会がなくなっていました。

私のボランティアの経験といえは、小学校の五、六年の時に、地域の行事の手伝いをしたことです。五年の時は友達に誘われてやりましたがとてもいい経験をしたので、六年の時は自分から進んでやりました。今年もこのボランティアに参加できたらいいなと思います。

私たちの身近なところでは、お母さん達が防犯パトロールなどの、ボランティアをしています。そういう人達がいてくれて、とても安心できます。

あらためて自分ができるボランティアは何か考えてみましたが、あまり思いつきません。

それでも私は、少しでもできることをしていきたいと思えます。その一つとしてゴミ拾いならできるとか考えられています。でかけた時や、遊びに行く時、ちょっとしたゴミでも拾えばボランティアになると思えます。もう一つとして、困っている人がいたら手助けしてあげられたらと考えています。今までは、はずかしかったりして、なかなか声をかけることもできませんが、少しずつ意識を持って行動したいと思えます。

ボランティアって、そんなに大げさな事じゃなくていいから続けることが大事だと思います。これからも自分でできそうな事があつた時は積極的にやってみようと思えます。

## ボランティアについて

小平市立小平第四中学校 一年 高橋 祐也

多くの人はボランティアときいて思い浮かべるのはつぎのようなことだと思います。

平成七年の阪神大震災では、地震の直後から全国各地から多くの人が集まって炊き出しをしてみそしるなどの温かい食事を用意したり、救済物資をあちらこちらに配る手伝いやガレキの片づけを手伝う人がいました。

また、障害者の施設や老人ホームなどでは食事のかいごをしたり、施設にいる人とかんたんなレクをしたりする人がいます。

ケガをした人のリハビリの手伝いをしに、病院に行くことなどです。でも、わざわざそういう場所に行かなくても、できるボランティア

もあります。

ずいぶん前のことですが母がデパートの階段で大きなもつを持ったお年寄りの方がいて、そのにもつを持ってあげた。と話していました。

こんな小さいなことも、ボランティアと言えると思えます。他にも何かないかと考えるとこんなことを思いつきました。

たとえば、自転車が歩道にはみだして置いて車いすが通れないのを見かけたらすぐにどけに行くとか、電車のきつぷを買ったのに困っている人をみかけたら

「何処の駅ですか？」

と声をかけてあげる。など他にもいろいろあります。

僕達のような中学生はこういう場面を見かけたら、どんどん進んでボランティアできるようにしたいです。

## ボランティアってなんだろう

小平市立小平第四中学校 一年 古野 彰

僕が考える本当の意味でのボランティアとは、自ら進んで、余っている時間を使い、楽しくやる事だ。嫌々ではされる方も不快だ。

僕の祖父は老人囲碁クラブで初心者に楽しそうに囲碁を教えている。僕達の家族が米国に住んでいた時、母はクラスの雑用をボランティアでひき受けていた。日本人は器用なので、母は本をラミネートしたり、図工を手伝った。でもこれは僕の母だけが特別にしていた事ではない。どの父兄も、得意な事で、クラスを支えていた。遠足の付き

そい、コンピーターの指導、色々だった。そして皆 ボランティアを  
楽しんで無理なくやっていた。

自分自身を振り返ってみると、ボランティアを何もしてこなかった  
気もする。でもわざわざボランティアを考えるとやるボランティア  
は、本来のボランティアだとは、思わない。むしろ、自然に人の為  
になる事をするのが「真」のボランティアだ。

以前ニュースで、ある市の活動について紹介していた。その市では、  
余った時間を使い、自分の得意な手助けをし、活動した労力をその市  
で使えるチケットに替える事ができる。またそのチケットで、買い物  
したり、他の人にボランティアを頼む事も出来る。このシステムは、  
時間とお金に余裕のない現代人に、受け入れ易いかも知れない。なぜ  
ならば、時給千円で働く人は、一時間働けば千円、ボランティアをし  
た場合、収入はない。時間やお金に追われる現代人には、ボランティ  
アより自分の収入の方が大切だからだ。だが僕は、収入に捉われずに  
行動するのが大切だと思う。ボランティアを現実的にする為には、学  
生時代に色々なボランティア体験をしないと良いと思う。何がボランテ  
ィアとしてでき、自分に合っているのか知ると、大人になってからボ  
ランティア活動が、特別な物でなく身近に感じられると思う。小さな  
子供でもできる活動は沢山ある。例えば資源集めや老人ホームで合唱  
する事などだ。小さい頃から、ボランティアを身近に感じさせる為の  
教育が大切だ。

僕の小学生時代のサッカーのコーチは、皆ボランティアだった。僕  
は中学校では、バスケットボール部で活動している。中学校を卒業し  
たら、地域の小中学生のコーチとしてボランティアをしてみたい。自  
分に子供ができれば、学校でボランティアもしたい。おじいさんにな

ったら、地域センターで、子供達と一緒に遊んだり、受付で皆を案内  
したい。

僕が一つボランティアをすれば、それによって時間が余る人が出て  
くる。その人達のうち何人かがボランティアをすれば、時間が余った  
り、気持ちに余裕の出る人がもつと出てくる。その様に心が豊かにな  
る社会になればいい。一人一人がボランティアに関心を持つ余裕のあ  
る、老後も安心して暮らせる社会になる様に僕もできることからトラ  
イしたい。

## ボランティアをしてみて

小平市立小平第四中学校 一年 原 篤史

僕は、年長からボーイスカウトをやっている。ボーイスカウトでは、  
主にゴミ拾い、老人ホームの奉仕、ユニセフ募金、環境保護などいろ  
ろやってきた。やはりボランティアをすると、

「ありがとう」

「ありがとうございます」

という言葉を聞く度

「よし、またやりたいな」

「いい事をしたんだな」

と思い、ちよつぴりうれしくなる。もちろん大人になっても、ごみを道  
にポイ捨てしないなどのちよつとした努力は続けていくつもりだ。

また、バスや電車などで、老人や障害を持った人などに、積極的に席  
をゆずりたいとも思っている。そしたらきつと

「ありがとうございます」

という声が聞こえてくると思う。人間は、感謝したり、感謝されたりしているだけで、僕は、なるべくなら感謝される方が多い大人になりたいと思っっている。もちろん僕も人から優しくされて心から「ありがとうございます」と言うこともいっぱい経験するだろうが……。

そして、「ありがとうございます」がいつも飛びかう平和な世の中になるといいと思うし、そのために努力していきたい。

## 私にとってのボランティア

小平市立小平第四中学校 三年 村上 友子

「あなたにとってボランティアとは何ですか」と突然聞かれた時、あなたはどんな答を考え、そして答えますか。

インターネットで調べてみたところ、「障害を持つ不自由な人を助ける」という意見が多かったです。しかし、私はそう思いません。

私は小学四年生から総合的な学習という勉強をしています。これは「レックツトライ！ぼくらの町」をテーマに、グループを組んで、小平市の人々と関わり合いを持ち、交流を深め、活動する学習です。地域の方々からの評判も良く、取材をされたこともありました。

この学習を長年続けてきた私にとって特に心に残っている活動が二つあります。

一つは「赤い羽根募金活動」です。この活動は有名なので知っている方も多いと思いますが、募金をしてくれた方に寄付をしたことを表す赤い羽根を渡します。その寄付金全額はひとり暮らしのお年寄りの方々に

食事を実施したり、車椅子障害者の方々のために、車椅子のまま乗れるリフト付車等による移送サービスなどを行ったりして幅広く使われています。

この活動をしたのは真冬のことです。朝は早い時間に集合し、みんなで声をそろえて

「赤い羽根募金にご協力お願いします」

と町の人々に協力を求めました。出勤時間で慌てているにもかかわらず募金してくれた人もいて、とても感動的な活動でした。

二つ目は、民生委員会を通して行ったお年寄りの方との交流です。

民生委員会というのは、社会奉仕の精神をもって地域住民福祉の向上のため、地域の世話役として活動している組織で、知り合ったきっかけは私のクラスの先生の紹介によるものでした。

民生委員会の方に紹介していたお年寄りの方のお宅を週に一度くらいみんなで訪れました。歌を歌ったり、戦争のお話を聞かせてもらったりする等、交流を深めました。そのお年寄りの方は一人暮らしの女性で毎回会うたびに、にっこりと微笑んで「ありがとうございます」と言ってくれました。

私はこの二つの活動を通して、自分にとってボランティアとは、人々の自由な笑顔をつくり出し、そして解放への道を開くものだと感じました。

開放への道というのは、何かに障害を持ち自由に動けないという悲しい気持ちを、私たちがボランティア活動を通して、その悲しさをやわらげ、少しでも気持ちを楽にさせてあげられる道のことだと思います。

民生委員会の方に紹介させてもらったあの女性の笑顔も気持ちが楽になった笑顔だと感じます。だから私はこの先、一人でも多くの解放への道

が開けるようお願い続け、ボランティア活動が普及するよう努めたいと思います。

## ボランティアについて

小平市立小平第四中学校 一年 矢向 美希

私は今までにボランティアの事を調べたことはあつたけど、やってみた事はありませんでした。よく、ボランティアをしようとか聞くけど、ボランティアって何をするのか、よく分かりませんでした。でも、学校の時の総合の授業「ならの実タイム」で、私は、ボランティアについて調べました。その時に、ボランティアとはどういうものなのか、だいたいには分かりました。お年寄りの住みよい町づくりにしたり、点字ブロックを敷いたり、そういうことも1つのボランティアにつながると思います。もし駅のキップ売り場に点字がなければ視覚障害者の方は、切符を買えません。それに、車イス用のスロープがなければ、車イスの方は、階段のある所を、通過することが、できません。だから普段なにげなく点字が書いてあったり、スロープが置いてあったりしても、それは、障害者の方にとってはとっても大切で、必要なものなんだと思います。この間、障害者の方が歩いている道が混雑していた時、白い杖を持っていれば、視覚障害者だつて分かるのに、ふつうにぶつかっているのに謝りもしないで、どんどん通り過ぎて行きました。私はサイテーだと思いました。視覚障害者の方は前が見えないで杖を頼りに歩いているのに、ひどすぎると思いました。そういう人は障害者の人の気持ち分からないから平気でそんなことができるのだと思います。

障害者の人の気持ちになれば、スロープのまえにたまってベチャクチャ話したり、障害者の人のじやまになるようなことはできないと私はおもいます。

私は、一度でいいからボランティアをしてみたいと思います。

## ボランティアについて

小平市立小平第四中学校 一年 吉田 かすみ

ボランティアというのは人に何かをしてあげたり、ささやかな事でも誰かのためにするのであるのならボランティアだと思ふ。私はささやかな事だけど、席をゆずってあげたりした事があります。それも、誰かのためにした事なのでボランティアです。小学校の時にボランティアで私たちができることということなどをやった事がありました。私は目の不自由な方たちの事を調べました。その時にボランティアの方たちにお話を聞きました。最後に私たちは目の不自由な方にボランティアで、何ができますか？と聞きました。そうしたら、信号などで青なのにわたってなかつた時など少しいので声をかけてあげてくださいと言ってくれました。その時私はそんなささいな事でもボランティアだと初めて知りました。他にも、荷物を持ってあげたりするのもボランティア、近じよのそうじもボランティアです。私はやってみたいボランティアがあります。それは、ほんかく的なことです。できたらボランティアをしてる方とみんなですてみたいです。ボランティアは誰でもできます。きかいがあつたらまたボランティアをしてみたいです。

## ボランティア

小平市立小平第四中学校 一年 渡邊 文子

ボランティアってなんだろうな

ボランティアって言葉は良く耳にするし、新聞なんかにも良く書いてあるのは知っている。ボランティアという言葉を書きで調べて見ると「公共福祉などのために自主的に無報酬で奉仕活動をする人」と書いてあった。

公共福祉、自主的となるとどこで、どうしたらいいんだろうと悩んでしまう。

やはりボランティアってむずかしいのかなとも思ってしまう。

良くわからないので母に聞いてみる事にした。母は簡単に

「ボランティアなんてちつともむずかしい事ではないのよ。家の前の公道を掃いて掃除するのもボランティア、毎日通っている上水の道に捨てたゴミを拾うのも、ボランティア。ボランティアって少しも難しくないし身近にたくさんある事だと思っよ。」

と話してくれました。

私は身近な事でもボランティアってあるのだなと少しわかった気がした。

でも自分が、行動しようと思う気持ちはあっても「恥ずかしいな」などと思つてなかなか行動にうつせない。ボランティアって勇気も必要なのかもしれないと思つた。

でも私はボランティアをやってみたいと思つている。それは、どちらかという引つ込み思案のいい事の半分も言えない私でも、人の役

にたつ事が出来るかな出来たら少し自分に自信がつくかなと思つたからです。

## 始めよう！ ボランティア！

小平市立小平第五中学校 一年 福室 英俊

ボランティア！皆さんはボランティアについて、考えた事がありますか？もし、目の前に重い荷物を持ったお婆さんがいたらどうしますか？

小学六年生の時の事です。僕が通っていた小平一小の近くに、中央公園という、大きな公園があります。ある日、小雨の中何人か集まり、ジャブジャブ池付近で遊んでいました。すると凄いいスピードで高校生が自転車を通って行きました。

(スリップしたら危ないだろうな、大丈夫かなー)

と思つていたら、突然、急ブレーキのキーという鋭い音と共に自転車が転倒する音、幼児の泣き声が耳にとび込んで来ました。慌てて走り寄ると、自転車がいよいよ倒れていました。泣き叫ぶ女の子。胸を痛そうにおさえる母親。足を打った高校生の三人がそこにいました。

(何が僕達にできる事はないかな)

僕はまず、自転車を起こし、泣いている女の子に声をかけました。

「大丈夫だよ、大丈夫だよ。」

すると女の子はだんだん落ち着き、泣き止みました。しかし母親の方は苦しそうに胸を押さえ続けていました。そのため高校生が、携帯電話で母親の家族に連絡をしました。七分位過ぎた頃、母親の姉がやって

きました。その間僕は、母親の背中をさすりました。何故かと僕が気分が悪い時や胸が痛い時、背中をさすってもらおうと気持ちからです。それでも痛そうなので、高校生が救急車をよびました。僕の友達が、救急隊員を誘導してきました。タンカに乗せ車に乗るまで見届けました。

遊んでいた場所に戻る時、母親のお姉さんに

「有難うございました。」

と言われました。僕はとてもうれしかったです。

数日後、母親のお姉さんから学校へ、連絡があり、御礼を言た。母親は肋骨を折り、入院したそうです。

人の役に立つ事はうれしい事だなーと実感しました。

このできごとは

『ボランティアは素晴らしい』

という事を教えてくれました。一人一人が、

『ボランティアしよう』

と思い、心掛る事で、この世界がすごく明るく平和になると思困っている人に何かをしようと思うのは素晴らしい事です。恥ではありません。明日から困っている人を見かけたら、皆さん声をかけてください。困っている人は、あなたの一言を待つて

## 自分にできるボランティア

小平市立小平第五中学校 二年 大村

私は、あまりボランティアをやった経験はありません。私が

こと、と辞書に載っていました。

私には、簡単なボランティアしかできないけれど、少しのためになると思います。一人でも多くの人がボランティアが、大事だと思います。

## ボランティアとは

小平市立小平第五中学校 二年

ボランティアと聞くと、そんなこと自分にできないと思  
もしれませんが簡単なボランティアなら誰でもできると思  
えることではボランティアになると思います。何かをして  
もちろん、何かをした人もうれしくなるし、自分がみんなの  
るんだと思い、自分に自信がついて、もつと誰かの役に立  
てもがんばればできるかもと思えているんなことに挑戦で  
す。

ボランティアとは、誰かに喜んでもらいたい、誰かの役  
思う気持ちがないよりも大切なのではないかと思えます。

私は、小学校の頃に学校の周りのゴミを拾って町をきれ  
ンティアをやりました。もちろんゴミを拾うことは、楽し  
なかつたけど、わたしたちの町が喜んでくれているよう  
しくなりました。これからも自分にできるボランティアを  
らしいなと思えます。

## ボランテイアの夫変き

小山市立小幸第五中学校 三年 注本 美穂

私には、ボランテイアが、今度、私を

「ボランテイア」という言葉は、いろんな所を聞いたことがある。でも、やってみたことは一度もない。

ボランテイアと一言で言っても、大変なことだつてある。

私は、ボランテイアと聞くと、障害者の車椅子を押したり、お世話をしたりという障害者のお手伝いということを思ひ出す。

でも、障害者の人達のお手伝いは大変だと思う。私の母は、ヘルパーをしている。これも、ボランテイアに近い仕事だと思う。

時々、ヘルパーの仕事をしている時の様子を聞くことがある。でも、様子でなくどんなことをしているのかが気になったから、母に

「ヘルパーは、どんなことをするの」と聞いてみた。そしたら、

「そうだな。ヘルパーは、お母さんやお父さんがいない時のためのお手伝いだから、その人たちの洗濯物を洗ったり、ご飯作つてあげたりするんだよ」

と言った。

私は、たったそれだけなのかと思つた。でも、それだけじゃなかった。障害者が、何かを買つてきてほしいと言つと、それを買いに行つて渡さないといけない。これは、物を探して買わないといけないから、大変。

そして、障害者が自分でお風呂に入れないから、ヘルパーが入れてあげなければならない。これも大変。私は、これを聞いた時、全てをひひひくるめて大変だと分かつた。そうすると、ボランテイアも同じような事

をしてるが、私には、ボランテイアが、今度、私を

をしてくるが

## 21世紀

辞書には

で技能や労力  
いても、ボランテイアも

小さい善書  
は、人の心に  
を借にも温め

小さい小さい  
ないというこ  
踏み出せるの

ボランテイア  
が、社会を助  
けていこう。

いつか、そ  
なるだろう。  
21世紀を

# ボランティアを体験してみて

小華市立小華第六中学校 三年 渡辺 綾華

夏

私は、七月二〇日多摩厚生園へ体験ボランティアに行きました。私にとつて、ボランティアは、初めてでした。その日は、多摩厚生園の納涼会でした。納涼会が始まるまで、お年寄りの方とお話しをしていました。私は、こつゆう場所でお話しをするのは、初めてだったので、緊張しました。けれど、お話しができたので、よかったです。

その後納涼会が、始まりました。私は、何をすればいいのかわからなくなっていました。そのうち、おつと仕事がありました。焼きそば屋のお手伝いです。私は、紅しょうがをのせる仕事を知りました。途中で、紅しょうがが、なくなってしまう、大変でした。焼きそばは、けつこう人気で仕事を手早くやらなければ、いけませんでした。納涼会が、終わりに近づいた頃、おつと休憩ができました。私は、焼きそばを食へました。その焼きそばは、とてもおいしかったです。

ボランティアを体験し、夏休みのとても良い思い出になりました。つかれたけれど、とても楽しかったです。

また、この様な機会があったら、ボランティアをやつてみたいと思います。

私は、ボランティアに行きました。私にとつて、ボランティアは、初めてでした。その日は、多摩厚生園の納涼会でした。納涼会が始まるまで、お年寄りの方とお話しをしていました。私は、こつゆう場所でお話しをするのは、初めてだったので、緊張しました。けれど、お話しができたので、よかったです。その後納涼会が、始まりました。私は、何をすればいいのかわからなくなっていました。そのうち、おつと仕事がありました。焼きそば屋のお手伝いです。私は、紅しょうがをのせる仕事を知りました。途中で、紅しょうがが、なくなってしまう、大変でした。焼きそばは、けつこう人気で仕事を手早くやらなければ、いけませんでした。納涼会が、終わりに近づいた頃、おつと休憩ができました。私は、焼きそばを食へました。その焼きそばは、とてもおいしかったです。ボランティアを体験し、夏休みのとても良い思い出になりました。つかれたけれど、とても楽しかったです。また、この様な機会があったら、ボランティアをやつてみたいと思います。

の補助もしました。私も上手く着せてあげられなくて少し焦りながら着せてあげました。皆はしゃいだり、水かけっこをしたりと楽しそうでした。

保育園の中の同じクラス、年令でも、背が高かったり低かったり、すごく幼なかつたりしつかりしている子がいたり、個人差がすごくありました。みんな友達や先生と話したり遊んだりして笑顔が絶えることがありませんでした。私は学校での勉強で笑顔というよりイヤだなと思う事の方が多く、この頃に戻りたいと思いました。しかし中学三年という必ず通らなければならないところに今、私はいます。勉強の息抜きでやったボランティアが、この純粹な笑顔で息抜きだけではなく、清い心やいつでも笑顔などをこんな小さな子から学びました。小さい子の力はペットやアイドルなども持っていないものを持っている、すごい大切な気持ちを持っていました。魔法ではできないことのできない、純粹な感情を表すこともできます。私は現代社会の進んだ技術者よりもすごい偉大な力を持っている、と思います。

私は2つのボランティアを体験し、たくさんの気持ちや力をもらいました。この気持ちや力を忘れずにがんばろうと思います。ずっと忘れる事ができない貴重な体験ができました。ありがとうございました。

## 「あさやけ鷹の台作業所」

小平市立小平第六中学校 三年 尾形 裕貴

このボランティア活動をしてみてわかったことそれは、とても大変で一先けん命がなばっていることです。ぼくが体験した場所は、東大和市

にある社会福祉法人 とぎわ会 あさやけ鷹の台作業所という所です。

そこでは、障害者さん達がいろいろな仕事をして働いています。仕事内容は、主に、空き缶回収、レポート作成に、薬を入れる袋を作るなどの仕事を分担してやっています。そこで働いている人は21人ぐらいいます。とてもびつくりしたことがあります。それは、レポート作成で、手が動かなくても声だけでパソコンを打てる機械がありました。空き缶を6kg集めても、少しのお金にしかならないとわかりました。あさやけの人達は、とてもやさしかったです。週に一、二回散歩があつて、そこで書いたレポートを周りの人々にわたしたり、空き缶回収をする。

ボランティアをして、人に役立ててとてもうれしかったです。

## ボランティアに参加して

小平市立小平第六中学校 三年 川原 里美

私は、ボランティアに参加してとても良い経験になりました。私がボランティアをやったのは、多摩済生園納涼会のボランティアです。納涼会でのお手伝いは、おじいさんや、おばあさんと一緒に盆踊りを見たりします。私は野中さんというおじいさんと一緒に盆踊りを見たりしました。初めて会ったときは、緊張して何をしゃべったらいいのかわからなかつたけれど、話をしていくうちに緊張もほぐれて、なれていきました。私は車椅子を押して外に行くまでが大変でした。ぶつけないようにゆっくりと押しながらいきました。今までは、楽に車椅子を押して行けると思っていたけれど、実際やってみると大変でした。

私は思っていることと、実際にやるのでは全然違うことが分かりま

した。

おじいさんやおばあさんが納涼会を楽しんでいたのがとても印象に残っています。

このボランティアに参加して、相手の気持ちを考えることを学びました。自分の一方的な思いを相手にしてあげるのではなく、相手の気持ちになって、やってみらつてうれしいこと、いやなことを考えて行動することが大切なんだと分かりました。この事はボランティア活動だけでなく学校生活などで役立てていきたいと思えます。

私は、とてもいい経験をしたと思いました。いろいろな人と会って、話をするなど、普段なかなかできないことを体験したからです。いろいろな体験をすることはとても大切なんだとこのボランティアを通して私は思いました。

## おばあちゃんとの一日

小平市立小平第六中学校 三年 小松 恵美

私は八月十二日～十五日の三日間「小川ホーム」にボランティアに行きました。なぜ小川ホームに行くかと思ったのかというと、将来福祉関係の仕事に就きたいからです。

一日目。私は友達と二緒にドキドキしながら小川ホームまで行きました。入口がわからなく、しばらくウロウロしていました。やっと中に入って、小川ホームの人々に挨拶して仕事にはいりました。初の仕事は、利用者の人達がつかむてすりの水拭きでした。それが終わったら、利用者の方々にお茶を配りました。この時に、人の部屋に入るときはちゃん

と声をかけることを学びました。

お昼になって、利用者の方々に昼食を配り、私は、完全介助が必要なおばあちゃんの所に行き、介助をしました。ちゃんとおかずなどがミキサーにかけてあり、食べやすいようになってました。

お昼を食べ終わり、エプロンやおしぼりを洗い、床のはきそうじをして休憩しました。約一時間の休憩後、今度は何十枚のタオルを水でぬらして、一つ一つ絞る作業をしました。これはすごく大変で、手が痛くなりました。その後、利用者の方々と話しをして帰りました。

二日目は、小川ホームに行くのがとてもワクワクしました。

この日は、女性のお風呂の日だったので、髪を乾かす仕事をしました。とても喜んでくれて、嬉しかったです。この後、お昼の準備をして、昨日と違う人の介助をしました。

お昼が終わり昨日と同じことをして、おやつを配り、利用者の方々とたくさん話げできました。

三日目は、今日で終わりとと思うときみしくなってきました。

この日は、シーツ交換の日でした。全員の人のシーツなどをスタッフの人とやりました。とても大変で、汗をかいてしまいました。でも人の役にたっていると、実感がわいてきました。

お昼は私が一番仲良くなった、おばあちゃんと介助でした。この日は終戦の日だったので、戦争のことなど話してくれました。最後まで、きちんと仕事をしました。

小川ホームのスタッフの方も利用者の方々も、とても優しくして仕事やりやすかったです。これからも、色々なボランティアをやっていきたいと思いました。

## ボランティアをしてみても

小平市立小平第六中学校 三年 高野 寿文

今年は何かボランティアをしようと思い七月二十六日に上水南町にあるまりも園という福祉施設に行きました。

私は今まで福祉施設に行つてボランティアなんてしたことがなかったのでとても良い経験をしたと思います。

今まで、私はボランティアに興味を持っては遊んでばかりいました。でも、友達がボランティアをして、「楽しかった。」とても良い経験をした。」と言つて聞いて、だんだんと私もやってみたくらいという気持ちが強くなつていきました。そして、学校でボランティアのことを聞き今回、私はまりも園で納涼祭のお手伝いをすることにしました。

そして、当日、私は焼き鳥屋のお手伝いをするにしました。そこでは、今まで私のしたことが無いことばかりでとまどつていたのですが周りにいた、お姉さんやおばさん、おじさんが明るく話しかけてくれて、とてもうれしく思いました。やきとりを焼いていて、私は、「つらい」というよりも「楽しい」と思う気持ちがいつの間にか出来上がつていました。たまに焼きすぎてしまう事あつたけど、一緒にお姉さんがとても良い人で気をつかってくれたりしてくれました。

途中から、同じ組の水口さんが私のやつていた焼き鳥屋を手伝つてくれて、とても助かりました。私と、水口さんは、一緒に仕事をしていてたくさんいろんな話をしました。他にも、一緒に来ていた、芹沢さんや土屋さん、木村さんいろんな話を話しながら、自分達の仕事をなんなくこなしていました。

私は今回のボランティアが初めてだったけど、とてもいい思い出にもなつたし、これからのためにもいい事をしたと心から思いました。

これからも、この経験を生かし、また、ボランティアを、自分から進んでやってみたくらいと、思います。

それと、今回やつたボランティアとちがうボランティアをたくさんやり、自分の将来のためにも生かし、たくさんの人とも、親しんでいきたいと、本当に思いました。機会があればやりたいです。

## ボランティアを体験してみても

小平市立小平第六中学校 三年 高橋 功

この夏、僕は一つ新しい体験をしました。それは、ボランティアです。きっかけは、友人に誘われてやりました。それに高校受験に役立つとおもつたからでした。しかし、ボランティアを体験した後はそんな事より、もつと自分が社会の為に役に立ちたい!!と思うようになりました。八月五日から僕達二人は『小平みどり作業所』という知的障害者の施設でボランティアをさせて頂くことになりました。

施設に着くと、明るい人達が迎えてくれました。その人達は、ちゃんと仕事をしていました。僕は初めて知的障害者が仕事を知りました。今まで僕が思つていたモノとはまるで違い、僕は自分が愚かで恥ずかしく思えました。

カバンを置くと、その担当者の照井さんが、自己紹介とボランティアの内容を説明してくださいました。そして僕達二人はそれぞれの仕事を与えられ、バラバラに活動しました。僕が最初に与えられた仕事は、

『さくら』を作る仕事でした。『さくら』とは、封筒をとめる金具で簡単に作れました。しばらくして、次はマンシヨン清掃と雑草ぬきをしました。これはとてもハードで大変でした。

マンシヨンから作業所へ戻ると、今度は、ダンボール縛りをしました。そこでは、内藤さんに縛り方を教えて頂きました。縛り終わるとこの日の作業は終わりました。この日、僕は障害者の方とちゃんと話をする事が出来ず、何だか複雑でした。

ボランティア二日目、前回同様ダンボール縛りをしました。そして、商店街などへ行きダンボール回収もしました。回収中に一人の障害者の方が、何度も何度も僕に話しかけてくれました。僕はただ話をしただけなのに、とても嬉しかったです。それをきっかけに僕は、多くの障害者の方と話しました。あまり話しはかみ合わなかったけれど、とても楽しかったです。

一緒に作業をしていると、障害者の方々にも個性があり、僕達と全く同じ人なんだと思いました。そしてそこには、障害者の方々を友達のように接している自分がいました。

ボランティア最終日、この日は『さくら』作りなどの封筒作りをしました。作業はとてもスムーズに進みましたが、僕はもつとここで作業がしたいと思っていました。そして、作業終了の時間になりました。それは同時に僕の三日間のボランティアも終わりということでした。最後にお茶とお菓子を頂き、帰ろうとした時、障害者の方が『ありがとございしました。』と丁寧に言ってくれました。僕はとても嬉しかったです。そして施設の方が、『また来いよ！』と言ってくれました。その言葉でもっとボランティアをしたくなりました。

今回僕は、人は皆同じで個性がある事、言葉の重要さを知り、とても

良い経験でした。

## 多摩済生園でのボランティア

小平市立小平第六中学校 三年 高橋 千尋

7月20日、私は多摩済生園での納涼祭でボランティアをやりました。そこで、お年寄りの方とソーラン節をみたり、模擬店に行ってみました。

車いすを押すこともやりましたが、とても難しかったです。あと、何を話しているのかよく分からずにいましたが、話をしてくれました。とても嬉しかったです。模擬店に行つて金魚すくいをやりました。金魚を樂しそうにすくっているのを見ることができたのは、良かったと思います。

ボランティアでは、学ぶことがいっぱいあったのではないかと思います。私は、自分の得意なことより、自分の苦手なことばかりみつめてしまったような気がします。初めて会った人に何を話をしていいのかわからなくなってしまうたりしています。だから、もつといろいろなことに積極的に活動してみようと思います。また、ボランティアや、それ以外のこともやっていこうと思いました。

## 楽しかったボランティア

小平市立小平第六中学校 三年 戸澤 愛加

7月20日、私は友達と一緒に多摩済生園で「夏!!体験ボランティア」に参加しました。この体験は、今まであまりボランティア活動をした事のなかった私にとって、ボランティアの本当の意味を教えてください、とても貴重な経験となりました。

活動日、多摩済生園納涼大会が始まる少し前に私達は今回の活動のスタート場所となる多摩済生病院に到着しました。病院の方の案内で、私達は今回の活動の対象者となるお年寄りの方々と出会いました。1人のお年寄りにつき、1人の私達ボランティアがつくという形で活動は始まりました。病院の方から、活動内容などの詳しい説明は受けられず、最初はわからない事だらけで自分はどうするべきかなどわからずに戸惑ってばかりでした。私の担当したおじいちゃんはとても元気な方で、おじいちゃん自身の事や病院の事、おじいちゃんの方々の事など、とても良く私に話してくれました。最初は活動に戸惑っていた私も、どの様にしたらおじいちゃんが喜んでくれるか、どの様にしたらおじいちゃんと一緒に楽しむ事ができるのかと考え自分なりに一生懸命に行動しました。そうしているうちに納涼会が始まりの時刻となり、おじいちゃんと一緒に納涼会へ行きました。屋台で何が食べたいのか聞き、それを買って来て渡すと、おじいちゃんは「美味しい美味しい」と言っていてとても喜んでくれました。その後も金魚すくいやヨーヨーすくい、盆踊りを見たりもして楽しみました。おじいちゃんのととても楽しそうな笑顔を見ていると私も本当に嬉しくなり、このボランティアに来た事が本当に良

かったと思えました。時間はあっという間に過ぎて、納涼会が終わると私はおじいちゃんを部屋に送って行きました。おじいちゃんは、私と一緒にとった金魚やヨーヨーをととても大事にしてくれている様子で、私が「また来ます!!」と言ったら、笑顔で「待ってるよ。」と言ってくれました。活動の中では疲れる仕事もたくさんあったけど私はこの時そんな疲れは一気にフツ飛んでしまった様な気がしました。

ボランティアとは無償で人のため尽くすという事をよく聞きます。人によつてはこれを単なるタダ働き、ととらえる人もいるかもしれませんが、でも、私は今回この活動が終わった後に、心の中にお金以上の何かがあるに残っている事をとても強く実感しました。もしかしたらこれは決してお金で買う事のできない、お金以上の価値のあるものなのかもしれません。私は今後も多摩済生病院はもちろん他の場所でも積極的にボランティアをするつもりです。そしてボランティアとは、対象者の方に与えるものではなく私達が対象者の方からとても貴重な何かを与えてもらえるものではないかと、私は思います。

## ボランティアを体験してみて

小平市立小平第六中学校 三年 中澤 未央

今年私はボランティアというものを初めて体験しました。私が体験したボランティアはまず多摩済生園のお祭りの手伝いです。

当日緊張しながらもおばあちゃん達と関わると、沢山のおばあちゃんの話しかけてくれました。高齢者とは思えないほどの元気さでした。また多摩済生園の祭りの手伝いもしました。全く経験がなかったので難し

かったです。このボランティアを体験したあとの充実感は今までにないようなものでした。人の役に立てたというまではいかなかったように思いますが、凄く気持ちのいいものでした。

そして2回目のボランティアは保育園の手伝いでした。まず保育園に入ると小さい子が皆寄ってきてとても可愛かったです。手伝いでは、いっしょに散歩に行ったり、いっしょに遊んだり、給食を食べさせたり……とまだまだ沢山ありました。でもその仕事の一つ一つが楽しくておもしろかったです。だから、きつと保育士という仕事はつらくても厳しくても楽しいんだろうなあと思いました。

今回、ボランティアを体験してみてもすごくいい勉強になりました。受験勉強で忙しい中体験した甲斐はあったと思います。小さい子から高齢者の方まで、いろいろな年齢の人達と関わってとても楽しかったです。

私はまだ将来の夢とか全然思いつかないけれどこのような仕事もしてみてもいいかなあと思いました。

## ボランティア活動をやってみて

小平市立小平第六中学校 三年 長末 頼暁

ぼくは、八月十二日から十四日までの三日間あさやけ鷹の台作業所でボランティアをしました。ぼくは今まで小学六年生のときにやった地域清掃をやったことはあったけれど、障害者の方のボランティアは初めてでした。まずぼく達がやった仕事は内職でした。この仕事はとても大変でした。ビニールの袋を六枚一組として折っていく作業でした。1セット二千枚くらい入っていて、それが箱でたくさんありました。とても集中

しなければ、ツルツルすべるので、初めは折るのがとても苦勞していました。この仕事を三日間やりました。このビニールテープ折りを早くきれいにたくさん折っていくみなさんがすごいなあと思いました。ほかにもぼく達の仕事はありました。昼食をみなさんに配ったり、昼食後は食器を洗ったりしました。昼休みには、障害者のみなさんと、トランプをやったり、ウノ・カルタなどやってあげました。2階にはたくさんのおしんがあり、色々な物を作っていました。とても上手で、ぼく達も少しおしんをやらせてもらってあげたけれど、みなさんとても上手で、すごいなあと思いました。あさやけ鷹の台作業所には、障害者の方の声に反応してうごく、パソコンもありました。このパソコンにはとてもびっくりしました。こういったパソコンなどもっと普及すれば、とても楽になるんじゃないかなあと思いました。この三日間あさやけ鷹の台作業所でボランティアをしたことはとてもいい経験になったと思います。これから、もっと積極的にこういったボランティア活動に参加していきたいと思いました。

## ボランティア

小平市立小平第六中学校 三年 姫野 絵里子

私は今年の夏休み初めてボランティアというものを体験しました。今年参加者を募集していたボランティアの種類はたくさんありました。その中で私がやってみたくてと思ったボランティアが納涼会のお手伝いです。納涼会が行われるすぐそばに、老人ホームがあります。そこにいるお年寄りの方と一緒に納涼会に出席して、一緒に楽しむというボランティア

でした。

納涼会当日、私は米倉さんという方を担当することになりました。とても優しい方でした。最初はどう接すればよいのかわからず、ただとなり立っているだけでした。一緒に来ていた友人達は徐々に担当している方と溶け込んでいたようでした。

私と近くにいた友人は、老人ホームの方からもらっていた券で食べ物を出店で買いました。ビールと枝豆とやきとりを買いました。枝豆は、さやから豆を出すのが大変そうだったので、豆を全部さやから取り出しました。やきとりは友達に、

「くしからお肉とつてあげた方がいいよ。」

と教えてくれたので近くにいた友達にも手伝ってもらいつつ、食べやすくしました。米倉さんは、やきとりを一つ残らず食べてくれました。そんなあたり前のことでも、私にはとてもうれしいことでした。

夕日も沈みかけていたころ、米倉さんの身寄りらしき女性の方が御見えになりました。米倉さんは、今日一日見てきた中でも一番うれしそうでした。二人はとても親しく話していました。

「もう出番ないかな。」

と思っていた時、女性の方が

「今日一日ありがとね。」

つと声をかけてくれました。その瞬間私は、

「今年ボランティアやってよかった。」

と思いました。

納涼会もおわりもう帰ろうとしていた時、米倉さんが私に手を振ってくれました。その時私は、今日の自分が米倉さんに認めてもらったような気がして喜びの中に、ホッとした気持ちも入り交じっていました。

今回のボランティアで私は、お年寄りを大切にすること、友達と助け合うことなど多くのことを学びました。私が今回参加したボランティアは多くのボランティアの中の一つです。今回体験したボランティアをはずみに、身近なところからまたボランティアに参加してみたいと思っています。

## ボランティアをやってみて

小平市立小平第六中学校 三年 福田 みく

私は、七月二十日の日に多摩済生園のボランティアに参加しました。その日はお祭りがあり、とても楽しみにしていました。でも、始まってしまふととても不安がつのり、どうしていいか分からなくなっていました。人に頼ってしまった部分が数多くありました。けれど、ボランティアの方が分かりやすく指導してくださったので助かりました。

私が担当した人はおじいさんでした。まさか一対一になるのだとは思っていなかったのですが、ボランティアの方に「お話しして」と言われても何を話していいか全く分かりませんでした。話せるだけ声をかけるなどとしておじいさんと交流をしようとしたけれど、なかなか心を開いてくれず、戸惑ってしまいました。でも、自分が不安がついていたら、相手の方まで不安になってしまうと思えるだけ笑顔でいるように努力しました。その結果なのは分かりませんが、少しづつながらも心を開いてくださって、会話がはずむほどうちとける事ができました。夜になって、お腹がすいているのもわすれてしまふほどボランティアという事に熱中していたため、終えた後に用意してくださった夕食はとてもおいし

く感じました。また、終えた後の達成感というものがとても大きく、たった、二、三時間だけだったのにこの気持ちを感じる事ができ、とても良い経験になったと思います。

私は、将来の夢というほど大きい事ではありませんが、大きくなったら福祉関係の仕事や資格を取り、お年よりや障害がある方の近くにいられるような仕事がしたいと思っています。今回のボランティアで、より一層この気持ちを強くしました。今後、数多くのボランティアに参加していくつもりです。少しづつでも、相手の方への対応がうまくなれるようになればいいと思っています。まだまだ今の自分では不十分なところがたくさんあります。言葉遣いや、日ごろの生活態度までが関わってくると思います。すぐには無理な話なのかもしれませんが、じょじょに克服できればいいなと思います。

## 人と人の触れ合い

小平市立小平第六中学校 三年 水口 沙央理

七月二十六日に、まりも園でボランティアをしました。今年は、去年とは違うボランティアをしてみたかったのでまりも園の納涼祭に参加しました。今年は一日だけでしたが、本当に多くの経験が出来ました。

ボランティア当日、友達と一緒にまりも園に行き、担当する利用者さんに会いました。しかし、私が担当した利用者さんはご家族がくるまで、ということだったので、その利用者さんとは二十分程しかお話しできませんでした。

次に友達の担当する利用者さんのところで手伝いをしました。いろいろ

ろしゃべりかけても、必要なこと以外はあまり答えてもらえなかったりで、少し残念でした。その利用者さんは、途中で部屋に戻りたい、と言って部屋に戻っていました。残された私達は何もすることがなく困ってしまいました。そこで、他の友達がやっている屋台の手伝いをすることにしました。私が手伝ったのは焼き鳥のお店でした。はじめのほうは焼き加減などをみているだけで精一杯でしたが、だんだん慣れていきました。夜になるにつれお客さんも増え、どんどん売れました。

このように一日だけでたくさん経験と思いができました。お年寄りの方々の話したりするのは、まだまだ下手ですが、これをきっかけにもっとたくさんの人と触れ合っていければ良いなと思います。これからも様々なボランティアに参加していろいろなことを学んでいきたいです。

## ボランティアをやって

小平市立小平第六中学校 三年 宮本 蘭

私は今年の夏休みに、ボランティアで老人ホームの納涼祭に行きました。内容は、お年寄りに付き添っていつしよにお祭りに行く事や、屋台のお手伝いなどです。

私がボランティアに参加した理由は、今年も去年同様に何かやりたいと思ったのがきっかけです。去年は保育園へ行きました。なので今度は老人ホームに行こうと思ったのです。

老人ホームに行つてまず最初に、私はお年寄りの付き添いを任せられました。その人は車椅子を使用していたので、初めてそれを押す私にとつ

て不安でしたが、すぐに慣れました。

それからしばらく、老人の飲食の介護等を行いました。数十分後には、「部屋に戻りたい。」と言ったので、いっしょに帰ることにしました。結局、あまりコミュニケーションがとれないまま、別れることになってしまい、残念です。

その後は少し、お祭りの催しを見ていましたが、さすがにずっとそうしている訳にはいかなないので、「何かやる事はありますか？」と、職員さんに聞きました。すると意外にも「自由にして良いですよ。」と、返事が返ってきました。しかし、私は「せっかくボランティアに来たんだから、何かやりたい。」と思い、とりあえず屋台に行ってみました。それでも、屋台も人手が足りているようでした。しばらく「ひまだな。」と眺めていると、屋台のおばさんが、「手伝っても良いよ。」と言ってくれたので、私は喜んで手伝うことにしました。屋台のお仕事はとても楽しかったです。又、売れていくのを見ると嬉しくなってきました。是非、もう一度やりたいと思います。

ボランティアを通して、様々な新しいことにチャレンジが出来て良かったです。

## 老人ホームで学んだ「笑顔」

小平市立小平上水中学校 一年 中谷 千咲

私にとってボランティアは、あまりきょう味の無いものでした。

真夏のある日、私は初めて老人ホームにボランティアに行きました。

母が勝手に応募した事もある、はつきり言えば、あまり乗り気ではあ

りませんでした。

中へ入ると、せいけつな室内のおくで、元気そうに歩いているおじいちゃんやおばあちゃんがいました。

老人ホームといえば、病院と同じように、ねたきりの人が多いと思っていたのですが、いろんな人がいるんだなあ、と感心してしまいました。

小川ホームは二階と一階で別れていて、一階はデイサービス、二階は老人ホームになっていました。どちらも体験させていただいたのですが、どちらの施設のおじいちゃんおばあちゃんもとてもイキイキしていました。話を聞かせていただいた時に、時々見せてくれた笑顔は、とてもピュアな感じがしました。

二階の老人ホームでは、清布づくりなど、身近なことをさせていただきました。「この布を使っておじいちゃんおばあちゃんが体をふくんだなあ」「この布をキレイに巻いておけばみんな困らないだろうなあ」など思いながら、一生けん命やりました。こういう小さなことでも、人のために何かできた「気がしました」。

一階のデイサービスでは、家から来ていることもあり、二階のしずかなフンキキとはちがう、元気な感じがしました。体そうやちよつとしたゲームなど、とつてもおもしろくて一緒に遊んでしまいました。どちらが利用者でどちらがボランティアかわからないくらいでした。

ボランティアで学んだコトはたくさんあるし、感じたコトもたくさんあります。でも、一番印象に残ったのは、やっぱり笑顔。私たちもおじいちゃんおばあちゃんを見習って、とびきりの「笑顔」で接してあげたいですね。

## ボランティアの大切さ

小平市立花小金井南中学校 一年 阿部 友里

私達の生活には必ず欠かせないもの、それは「ボランティア」です。私はボランティアとは、人が人のために手伝いをする協力の場だと思えます。自分の周りを見渡してみると関わってくるボランティアがたくさんあります。赤い羽根募金やユニセフ募金などが身近にあります。自分達と同じ年ぐらいの子も積極的に募金活動をしているのを時々目にします。しかし、中には「協力するのはめんどうだ。」や「ボランティアをして得する事もないし。」などと言ってボランティアに参加してくれない人がいないとは言えません。確かに今はたくさんの人が自分の生活に急がしいと思います。だからこそ今、たくさんの人が心にゆとりを持ってボランティアに積極的に参加してほしいと思うのです。

私は、この夏休みボランティア活動に参加してみました。その内容は、老人施設の夏祭りの売り子をするというものでした。私はジュース担当でした。買いに来てくれたおじいさんやおばあさんのほとんどが車いすに乗っていておじいさんやおばあさんには2、3人の人が付きそっていました。注文するのは耳が不自由ながらも付きそいの人に教えられ、おじいさん達本人でしてくれました。たまにおばあさんが、

「がんばってね。」

などとやさしい声をかけてくれました。私はボランティアに参加してみて本当に良かったなあとと思いました。

このように、参加してみても新しい発見がありました。たくさんの人が心にゆとりを持ち人に優しく接する事を学ぶことができる、「ボランテ

ィア」には社会を明るくする力があると思います。自分が困った時だけボランティアをしてみようと思うのではなく、いつでも人と協力し合って生きていこうと思うのが一番大切な事だと思います。

## ボランティア

東京都立小平養護学校 中学部二年 大串 卓矢

ボランティアという言葉は、今通っている肢体不自由養護学校に来るまで意味も分からずにいました。

ぼくは、片手足が不自由で傷害のない人の様に上手には使えません。でも、この学校には、ぼくよりも体の不自由な人がたくさんいます。歩くこと、体を自由に動かすことがむずかしい子、言葉がうまく話せない子、コミュニケーションがとれない子、自分で食べるのがむずかしい子などいろんな障害を持っている生徒がいます。今までぼくは、普通の小学校に通っていたので、ぼくより体の不自由な人がいることを知りませんでした。それどころか、クラスのみんなに手を貸してもらったことばかりでした。でも、この学校に来てからは、ぼくが学校みんなに手を貸してあげる様になりました。

車イスの友達を通れる様に机をどかしてあげたり、給食の時おかわりを持ってきてあげたり、昼休みに友達と遊ぶ時それぞれの障害に合ったルールを自分で考えたりします。みんなと仲良くなっていこううちに言葉をお話せない友達の気持ちかわかる様になってきました。

今は、先生に言われて行動することが多いけれど、これからは、手伝ってほしい人がいたら積極的に行動したいと思います。

ボランティアをすることはむずかしそうに思うけれど一緒に過ごしているうちに相手の気持ちが分かる様になり自然と手を貸してあげることもボランティアの一つだと思います。

## 身近なボランティア

私立白学園中学校 二年 飯田 藍

私は、今年の夏休みをつかって2回目のボランティアをしました。

小学校のときにクラス全員で3チームにわかれてボランティアをしました。1つは、身体障害者の人のお手伝い。2つ目は、老人ホームのお手伝い。もう1つは、幼稚園のお手伝い。

私は、幼稚園のお手伝いをしました。そのときは、先生やクラスのみな、お母さんが居たので、とても楽しくできました。なので、今回の老人ボランティアも、とてもそんな感じで、簡単にできるものだと思っていました。私が、今回お世話になったのは、私の家の近くの駅から4つめの駅、花小金井駅の近くにある、さわやか館という老人ホームで2日間中学校の友達と、お手伝いをしました。

さわやか館で働いている人は、全員で4人、思っていたよりすごく少なかったです。

さわやか館に通う人は、80〜100歳ぐらいの元気な老人が20人ぐらい居ました。みなさんは、午前9時から午後3時まで、私がお手伝いする時間は、午後1時から午後3時まででした。私が最初に入ったときは、テレビを見ている人やコンピューターでゲームをしていたり、マッサージをしてもらっている人や、自由にしていました。マッサージは、専門

の人が来ていました。

午後1時30分から、ことわざゲームをしました。ことわざゲームとは最初の5文字ぐらいまで言って、そのあとの言葉を当てるとゆうゲームでした。

このとき私はまだ誰とも話せられないでいたので、不安と緊張でいっぱいでした。

友達も、みなさんとことわざを考えて楽しんでいたので、心の中では(良いな〜)と、ばかり思っていました。

ことわざが終ってから、おやつタイムでした。この日は、お茶とドーナッツでした。

私はまた一人で食べていると、1人のおばあさんが「どこから来たの？ボランティアなんて偉いね。」

その言葉で、私の不安はどこかに行ったような感じがしました。私はすぐに「小平市から来ました。老人ホームは初めてなので、緊張して、誰とも話せなくて・・・。」

おばあさんは、ニッコリと笑ってくれました。私もおもしろいニッコリと笑いました。

(明日も、また来たくなったな、良かった、うれしい。)

そのあとも、そのおばあさんと話しつづけました。

あつとゆうまの2時間でした。

次の日は、そのおばあさんは来てなかったけれど、私はすごく自信がありました。

その日は、積極的に、みなさんと話しました。私は、ボランティアって良いものだと思えました。

みなさんの近くにもコンビニがあれば、ボランティアができます。チ

ヤリティーボックスです。

たった、200円でも3人は助かるそうです。

私は、今回のボランティアをしてから、ボランティアの事を考え直し、コンビニに行ったら、お小遣いから10円はだしています。

そして最初、半端な気持ちでやった事を今になって後悔しています。しかし、この事で、また来年も行く！とゆう気持ちがでてきました。本当によい経験ができたと思えました。良い経験ができたのも、あのおばあさんの19文字のお陰です。

本当に、ありがとうございました。

## ボランティアを通して学んだこと

私立白学園中学校 二年 高橋 もえみ

私の家は核家族で、地方に祖父母は住んでいる。年に一、二度くらいしか会うことがなく、小学生の頃までは祖父母に会える日をとっても楽しみにしていた。でも、中学生になった頃から、自分の生活の中での楽しみ、友達、学校との関わりの中での居心地の良さに浸ってしまい、田舎の祖父母に対しては小学生の頃のような思いから遠退いた気がする。そんなこの夏、ボランティアを通して自己中心的な考えを改めることができ、有意義な夏休みを過ごすことができた。

私は、高齢者が集まるデイサービスセンターにお世話になった。今迄あまりお年寄りとの関わりを持ったことがないので、うまく話ができるか、私に役に立てることがあるだろうかという心配しながら訪問した。でも、お年寄りの方が皆、暖かい雰囲気だったのでスーツと緊張が

解けた。近所のお年寄りが集まって楽しい時間が過ごせるようにゲームや歌をうたったり、お茶菓子を頂いて色々な人と話ができる交流の場所。毎日来られるお年寄りばかりではないので、この日をとっても楽しみにされている方もいた。私も色々なお話を聞かせて頂くことができた。そして、私自身、反省させられることもあった。高齢になっているということは、それまでに様々な人生の経験をしてきている。だから、生きる知恵も持っているし、知識も豊富だ。それなのに、こうした高齢者に接しないで貴重な知恵や知識を教えられないままになっているとしたらそれは本当におかしいことだと強く思った。今日の文明が発達し、便利な生活ができるようになったのは、ずっとそうした経験者の知恵や知識を生かしてきた結果だ。だから、高齢者の話に耳を傾けることができたこと、とても貴重な体験だと思っている。人生の先輩であり、社会の先駆者だから、自分たちの社会をつくった人として尊敬する。これからは、高齢者がますます増えていく世の中だ。そうした社会で、高齢者に接しないで生きていくことは考えられず、また、高齢者の知恵を借りずには成り立たなくなっていくだろう。

私はセンターで簡単な手伝いしかできなかったが、帰り際に「また来てね。」と声を掛けられた。こんな私でも喜んでくれる人がいるのかと思ったら、うれしくて何かせずには居られない気持ちになる。そして「自分がもしこうした立場だったら。」と考えさせられた。

他人のことだから放って置くのではなく、高齢者に限らず、困った人の立場になってみて、少しでも人を助けることが大切かを学んだ。

これからは、自分の祖父母とももっと交流を深めたり、近所の高齢者にも声を掛けてみようかと思った。

## ボランティアを通して感じたこと

立教女学院中学 三年 高橋 麻実

私は今年の夏、小平市のボランティアセンターを通して「小平市高齢者デイサービスセンター」に二日間ボランティアに行きました・主な活動の内容は、高齢者との話し相手と午後に行われている趣味活動のお手伝いでした。

学校のボランティアグループに入っているので今回がボランティアをするのが初めてという訳ではありませんでした。学校のボランティアグループでは分からないことや困ったことがあっても「先生や友達がいる」と安心して人に頼りきみになっている点もありました。しかし今回のボランティアは個人で参加したものであり、ほとんどの仕事が自己判断に任されているので行く前は少し不安もありました。

私が最初にした仕事は高齢者との話し相手でした。なかなか話題が思いつかず困って黙っている私に逆に声を掛けて下さいました。高齢者の方々は皆さん物知りで、私の知らないおもしろい話やいろいろいな知識を教えて下さいました。

趣味活動の時間ではかわいいでティベアを作ったりダンボールを使って工作をしたりしました。細かい作業や難しいことはきつと施設の方や私が手伝わないと無理だろう、という勝手な先入観を持っていたのですが、高齢者の皆さんはとても器用で細かいところも丁寧に作っていて私が手伝うところはほとんどありませんでした。高齢者の方々が一つのことばに夢中になって取り組む作業の様子は二日間の中でも特に印象的でした。

最後に皆さんの帰りを見送る時に多くの方から「ありがとう。今日はとても楽しかった。」と声を掛けてもらった時はとても嬉しかったです。自分では失敗したこともたくさんあり二日間反省する点ばかりだったのですが、それでも応援して下さいました方、必要として下さった方がいたことはとても励みになりました。

今回のボランティアを通してどんな小さな仕事にも責任を感じることができ、また人に感謝された時の大きな喜びや達成感を体験することが出来ました。「ボランティア」とは自ら進んで誰かのために何かをすることです。しかしその時見えたもの、感じたものは必ずこれからの自分に役立つことばかりだと思います。この貴重な体験を与えて下さった皆さんに心から感謝しています。